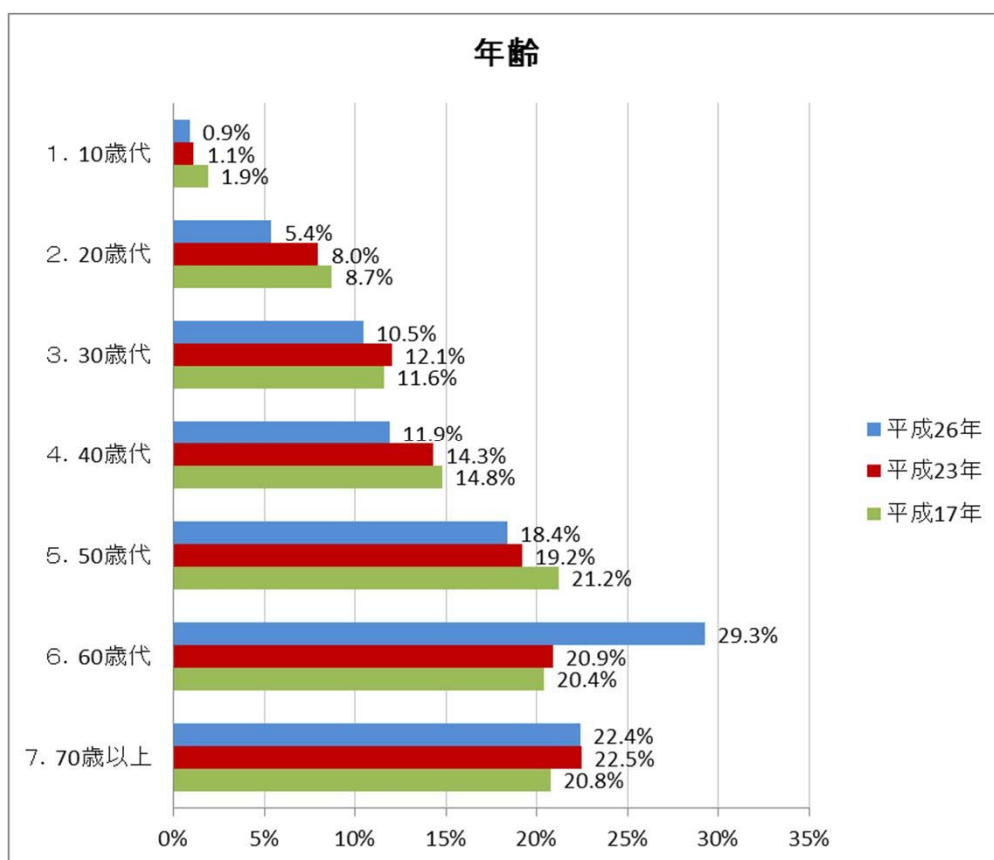
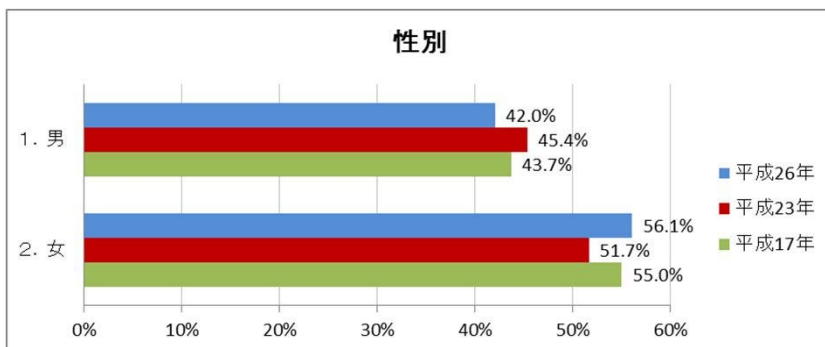
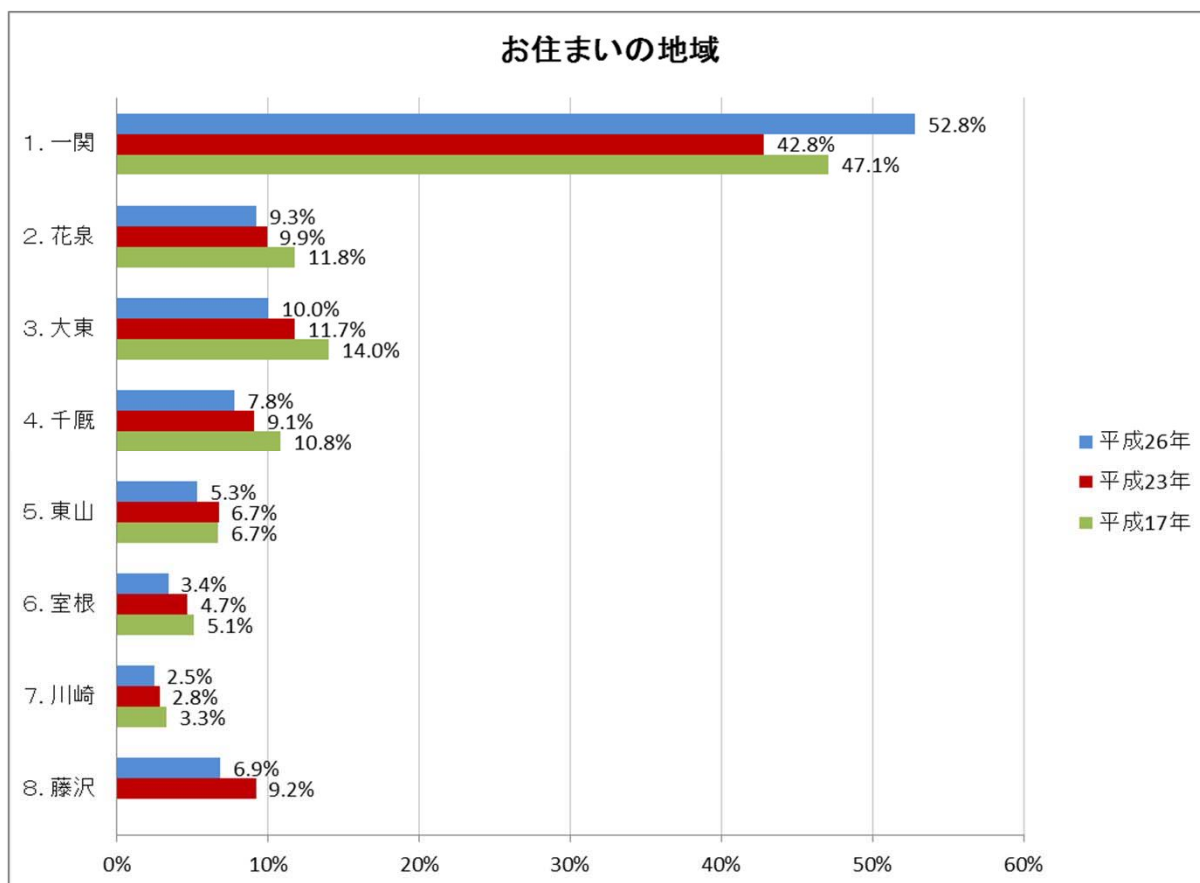
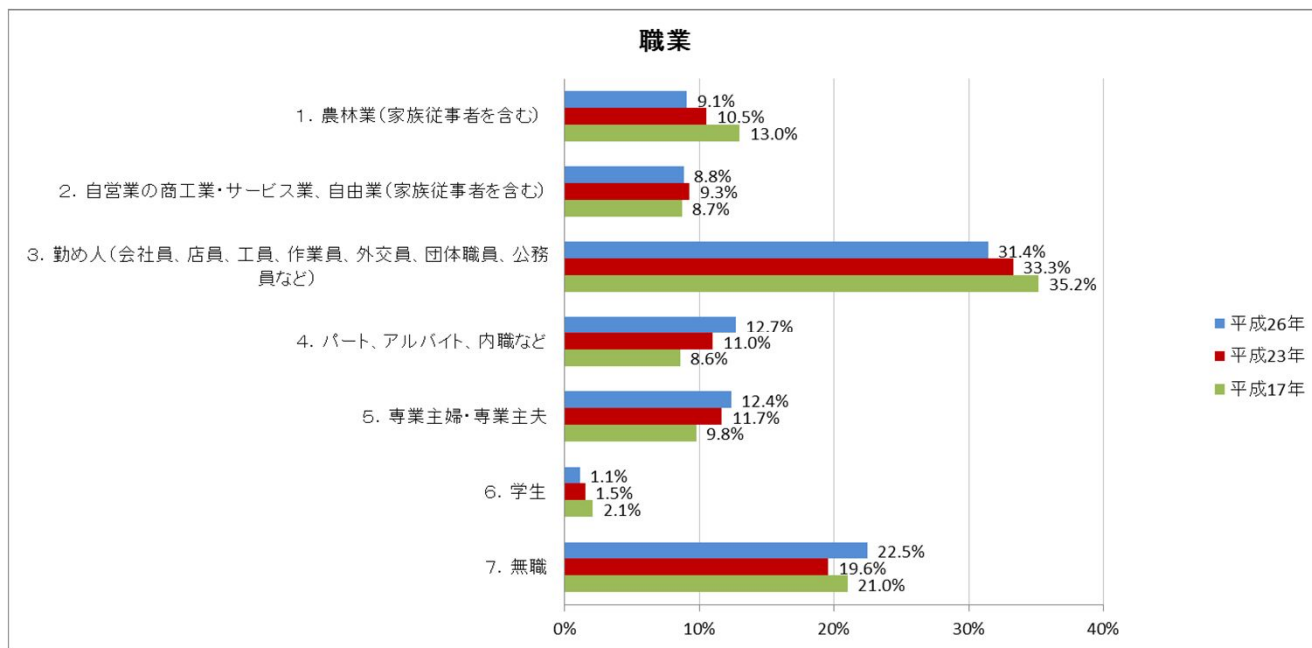


総合計画策定アンケートの結果について

	目的	調査対象・方法等	回収率	調査期間
H26	総合計画の策定にあたり、日常生活の満足度や行政サービスなど、今後の一関市のまちづくりに対する市民の意向を広く把握し、計画策定及び今後の市政運営に反映させることを目的とする。	<p>(1)市民アンケート 無作為に抽出した18歳以上の一関市民4,500人を対象。</p> <p>(2)中高生アンケート 一関市内の中学3年生と高校2年生の中から900人を対象。</p> <p>(3)企業アンケート 一関市、平泉町、陸前高田市、気仙沼市、登米市、栗原市の企業の中から抽出した100社。</p>	<p>1,708人から回答 37.9%</p> <p>898人から回答 99.7%</p> <p>54社から回答 54.0%</p>	平成26年6月20日～7月4日
H23	後期基本計画の策定にあたり、日常生活の満足度や行政需要など、今後の一関市のまちづくりに対する市民の意向を広く把握し、計画策定及び今後の市政運営に反映させることを目的とする。	<p>(1)市民アンケート 無作為に抽出した18歳以上の一関市民、藤沢町民4,500人を対象。 【内訳】一関市4,185人 藤沢町315人</p> <p>(2)中高生アンケート 一関市、藤沢町の中学3年生と高校2年生の中から900人を対象。</p> <p>(3)企業アンケート 一関市、藤沢町、平泉町、登米市、栗原市の企業の中から抽出した100社。</p>	<p>1,661人から回答 36.9%</p> <p>896人から回答 99.6%</p> <p>56社から回答 56.0%</p>	平成23年6月28日～7月12日
H17	総合計画の策定にあたり、「一関のまちづくり」に対する意識や考え方などを広く把握し、総合計画及び今後の市政運営に反映させることを目的とする。	<p>(1)市民アンケート 無作為に抽出した18歳以上の一関市民4,500人を対象。</p> <p>(2)中高生アンケート 一関市内の中学3年生と高校2年生の中から300人を対象。</p> <p>(3)企業アンケート 岩手県南(両磐地区、胆江地区、気仙地区)・宮城県北(栗原市、登米市)地域の企業から抽出した50社。</p> <p>(4)通勤者アンケート 市外から市内の企業へ通勤している方の中から100人を対象。</p> <p>(5)出身者アンケート 首都圏等に在住している市内出身者の中から100人を対象。</p>	<p>1,823人から回答 40.5%</p> <p>288人から回答 96.0%</p> <p>25社から回答 50.0%</p> <p>75人から回答 75.0%</p> <p>49人から回答 49.0%</p>	平成17年12月11日～12月27日

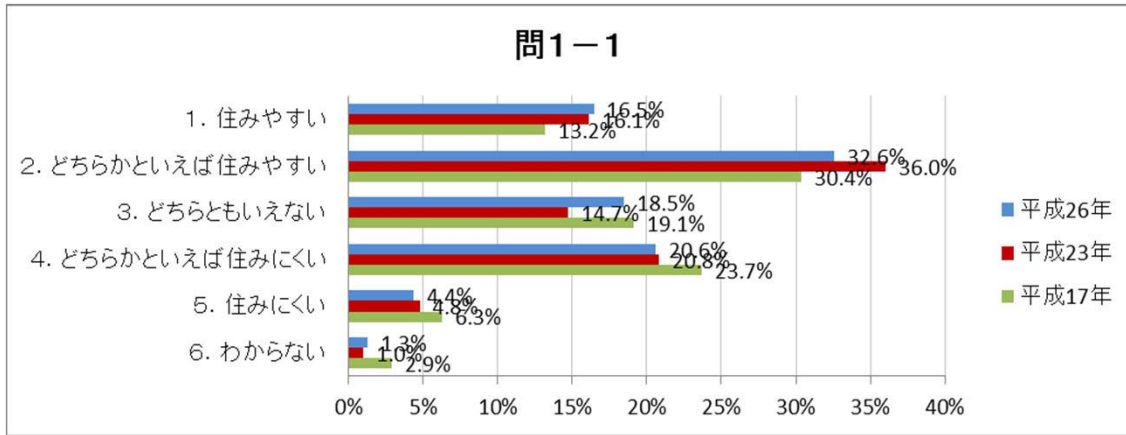




市民アンケート

問1-1

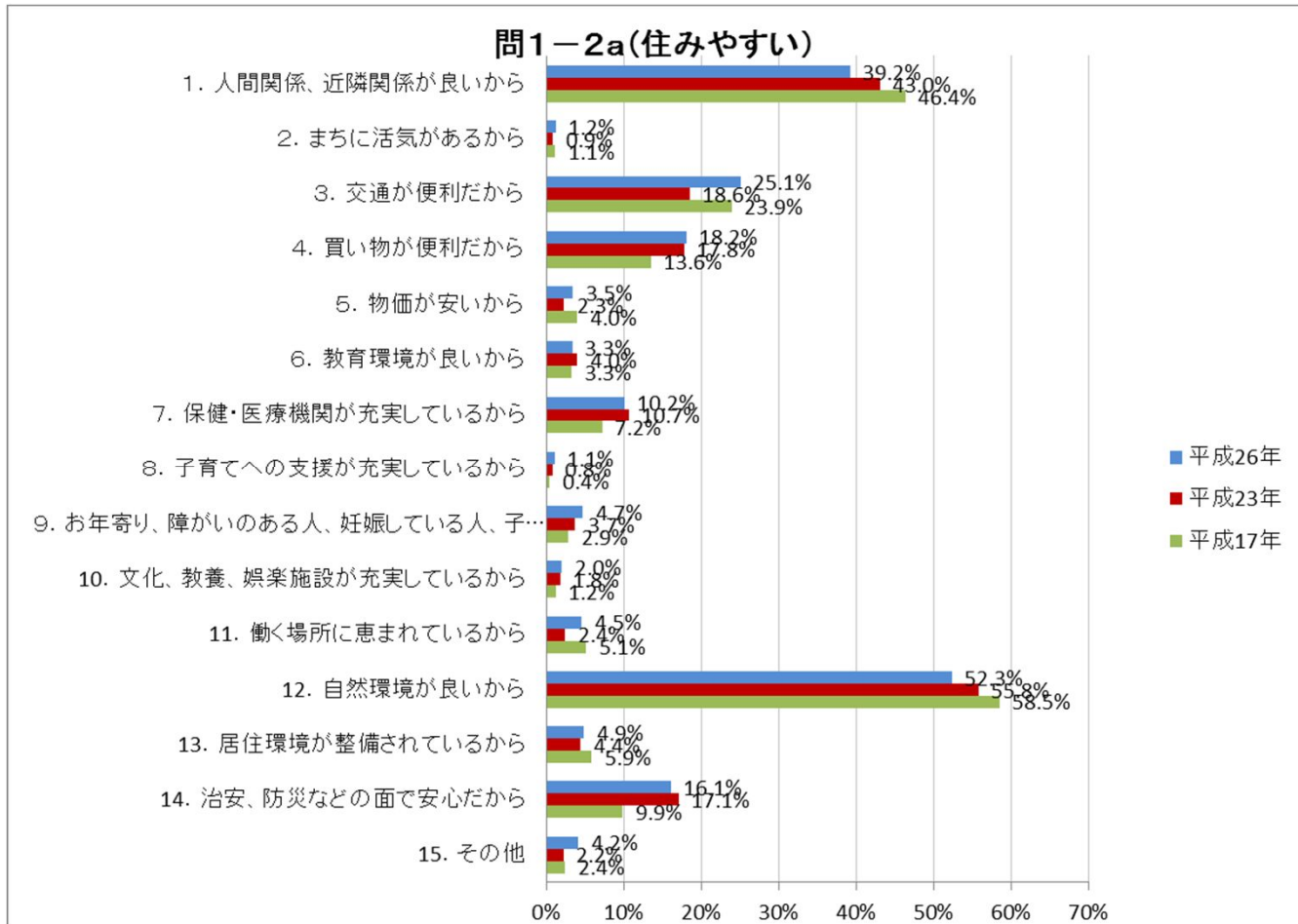
あなたは、一関市の住みやすさについて、どのように感じていますか。



◆総じて、「住みやすい」は49.1%、「住みにくい」は25%だった。前回調査時と比較すると、総じて「住みやすい」は3ポイント減少し、「住みにくい」は0.6ポイント減少した。

問1-2a

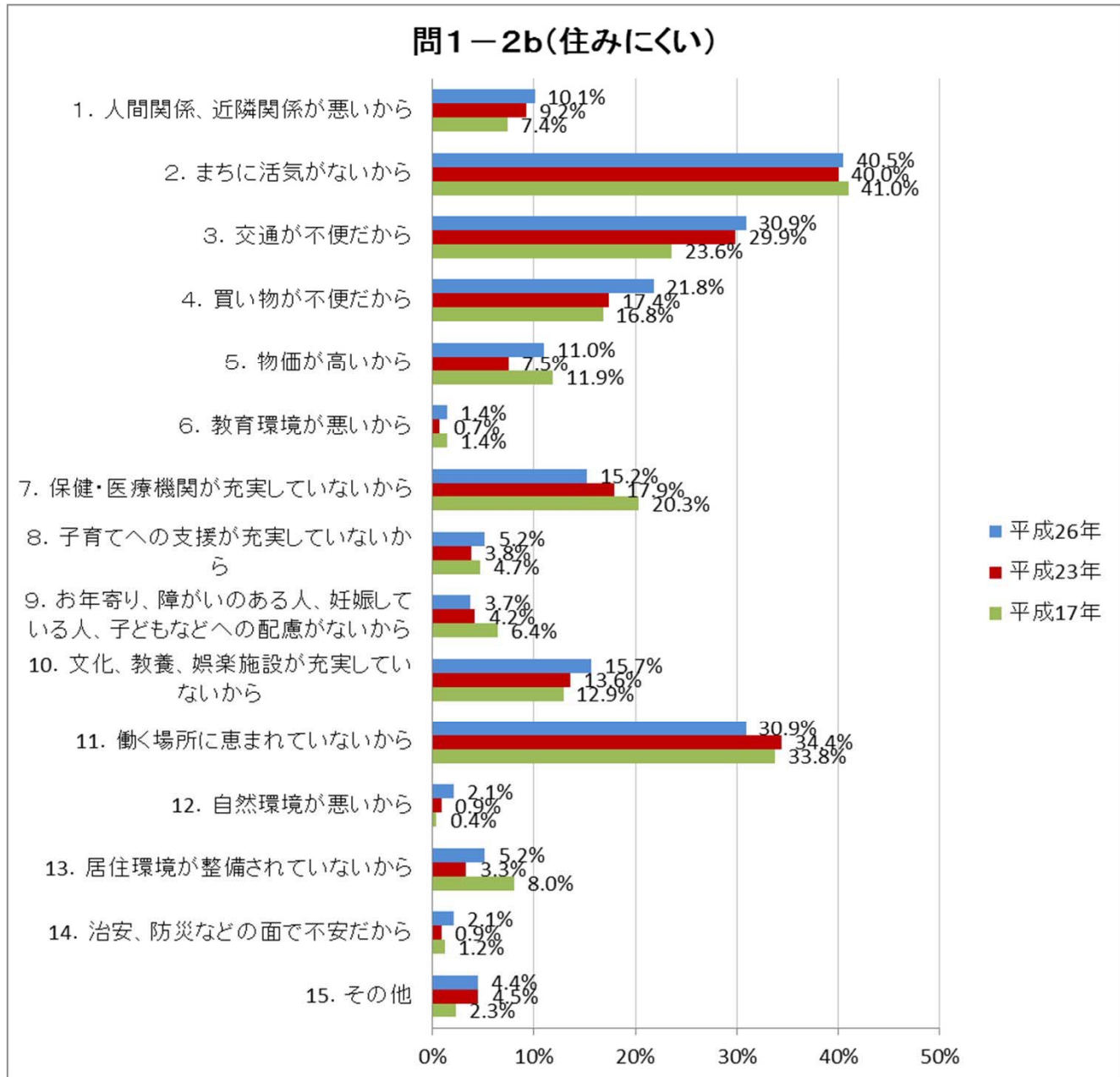
それはどのような理由からですか。(住みやすい)



◆「自然環境が良いから」「人間関係、近隣関係が良いから」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「交通が便利だから」「お年寄り、障がいのある人、妊娠している人、子どもなどへの配慮があるから」の割合が増加し、「治安、防災などの面で安心だから」の割合が減少した。

問1-2b

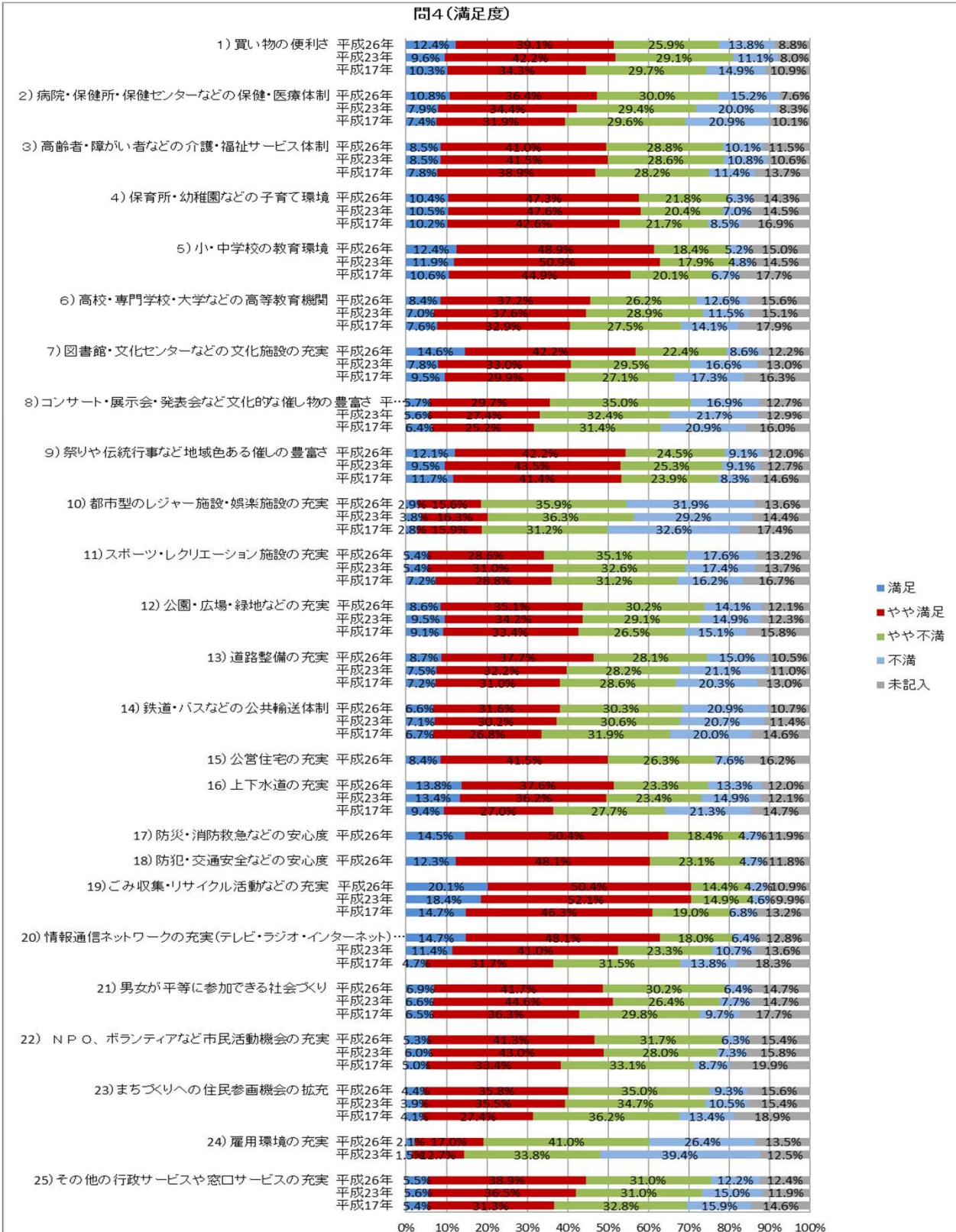
それはどのような理由からですか。(住みにくい)



◆「まちに活気がないから」「働く場所に恵まれていないから」「交通が不便だから」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「買い物が不便だから」「文化、教養、娯楽施設が充実していないから」「治安、防災などの面で不安だから」の割合が増加し、「保健、医療機関が充実していないから」「お年寄り、障がいのある人、妊娠している人、子どもなどへの配慮がないから」の割合が減少した。

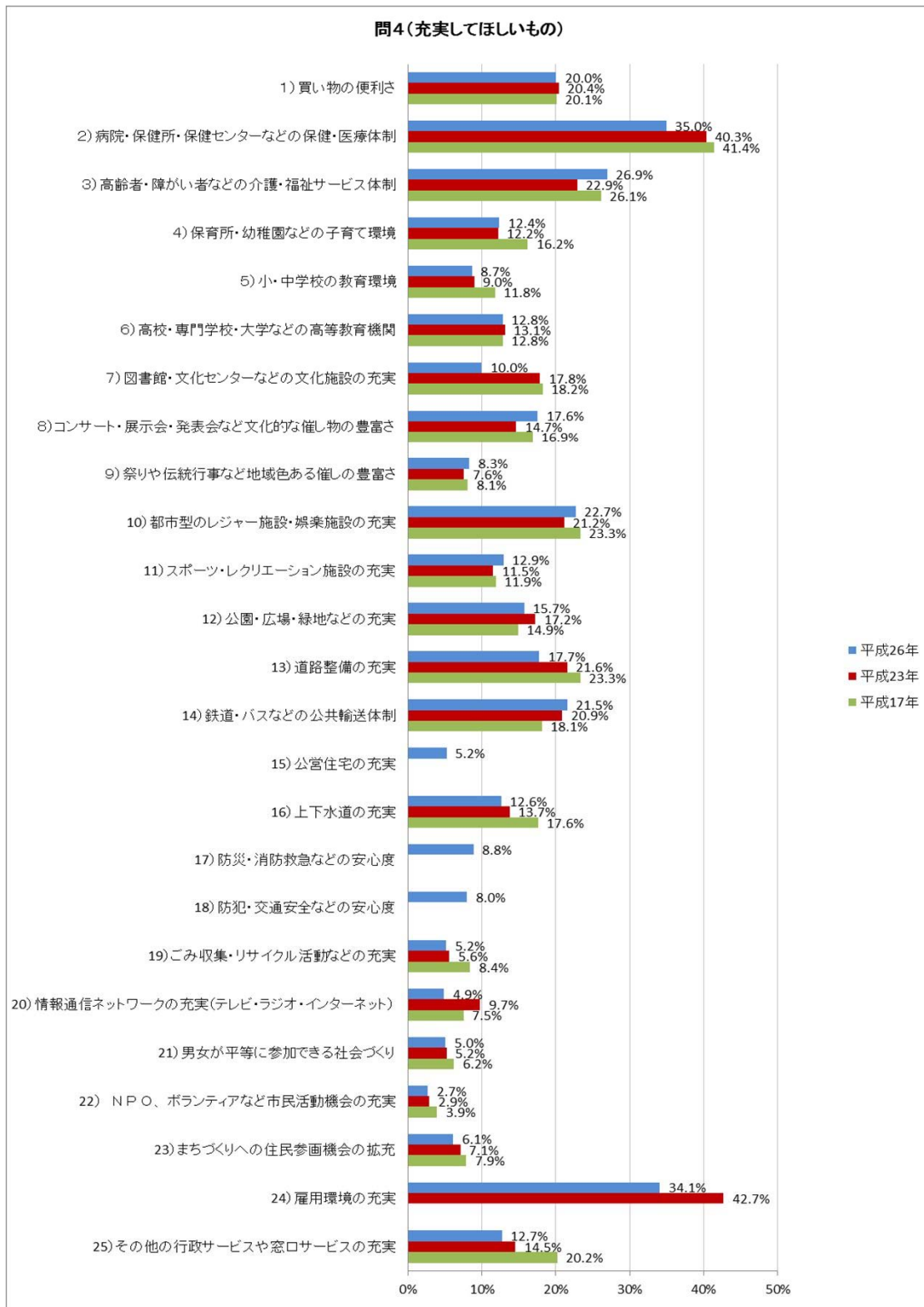
問4

あなたは、一関市の生活環境について、どのように感じていますか。



◆総じて「ごみ収集・リサイクル活動などの充実」「防災・消防救急などの安心度」「小中学校の教育環境」「保育園・幼稚園などの子育て環境」「情報通信ネットワークの充実」が満足の割合が高く、「都市型のレジャー施設・娯楽施設の充実」「雇用環境の充実」「スポーツ・レクリエーション施設の充実」「コンサート・展示会・発表会など文化的な催しの豊富さ」が不満足の高割合。

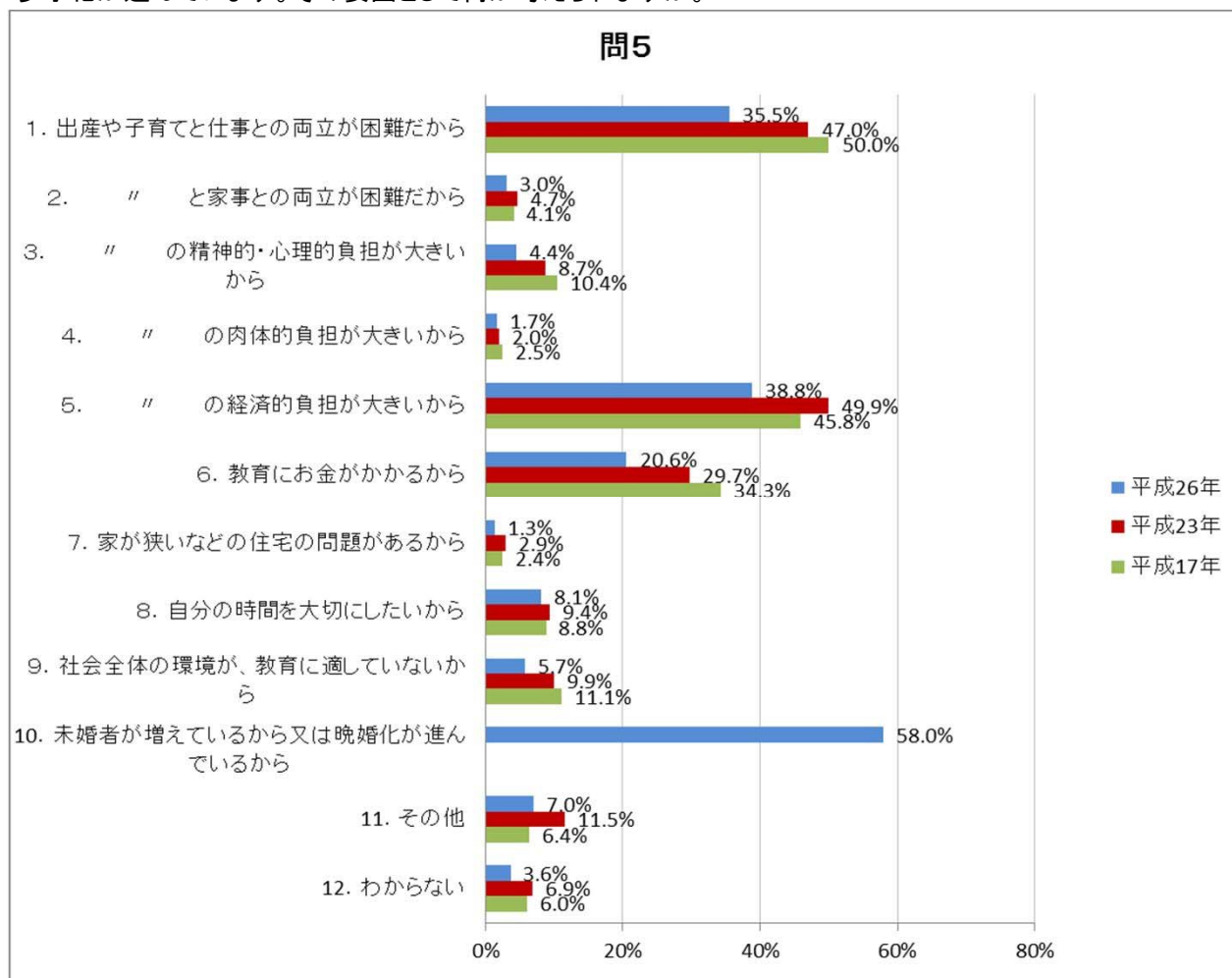
また、今後もっと良くなってほしいと思う項目は何ですか。



◆「病院・保健所・保健センターなどの保健・医療体制」、「雇用環境の充実」、「高齢者・障がい者などの介護・福祉サービス体制」の割合が高い。

問5

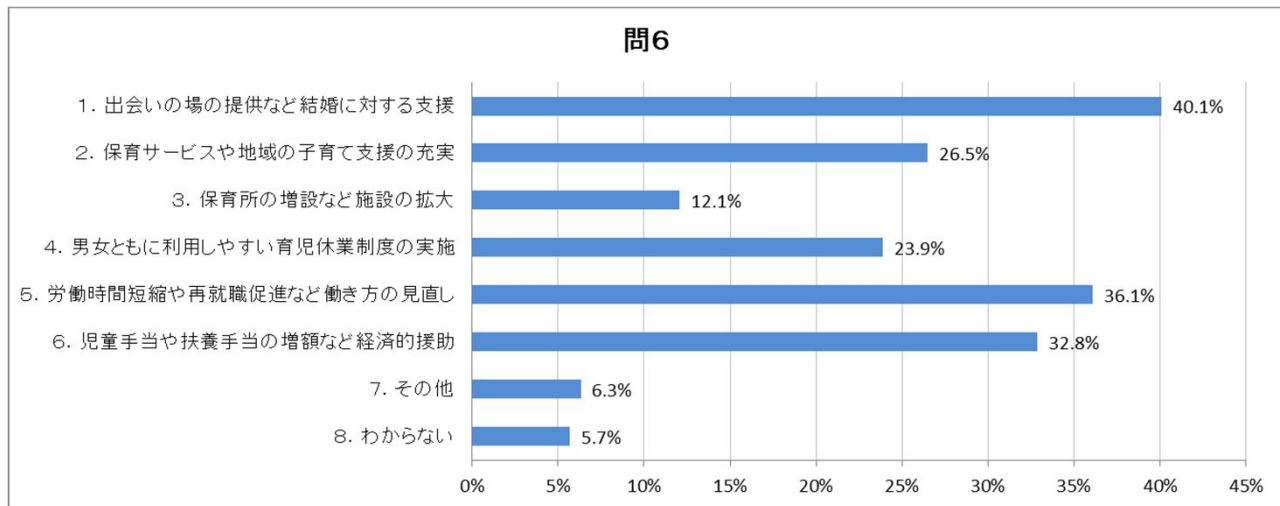
少子化が進んでいます。その要因として何が考えられますか。



◆「未婚者が増えているから又は晩婚化が進んでいるから(H26新規)」「出産や子育ての経済的負担が大きいから」「出産や子育てと仕事との両立が困難だから」の割合が高い。

問6

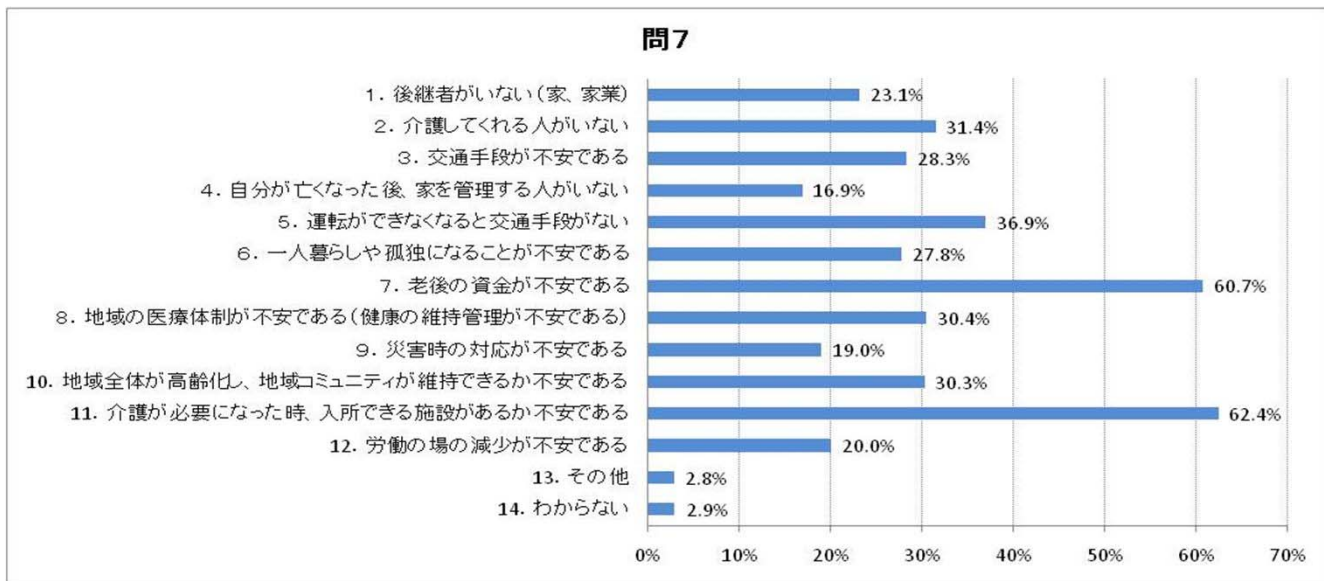
自治体や企業は少子化対策として何に力を入れるべきだと思いますか。



◆「出会いの場の提供など結婚に対する支援」「労働時間短縮や再就職促進などの働き方の見直し」「児童手当や扶養手当の増額など経済的援助」の割合が高い。

問7

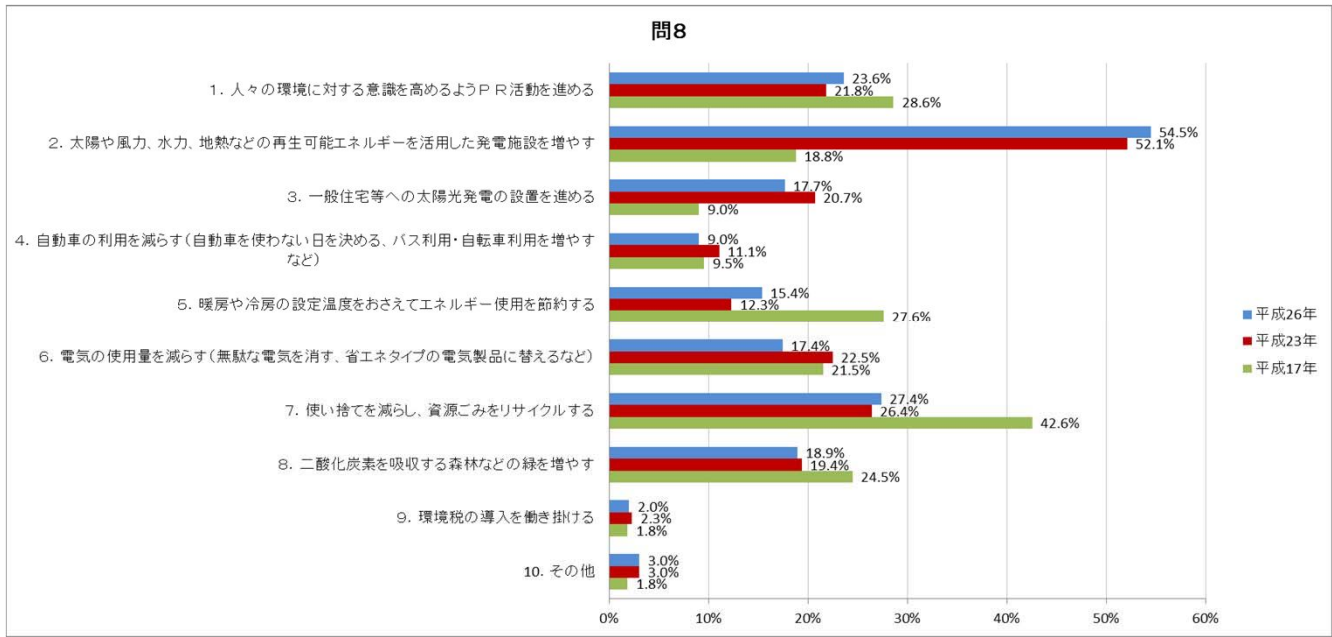
あなたが高齢化すること(したこと)で不安に思っていること、困っていることは何ですか。



◆「介護が必要になった時、入所できる施設があるか不安である」「老後の資金が不安である」の割合が高い。

問8

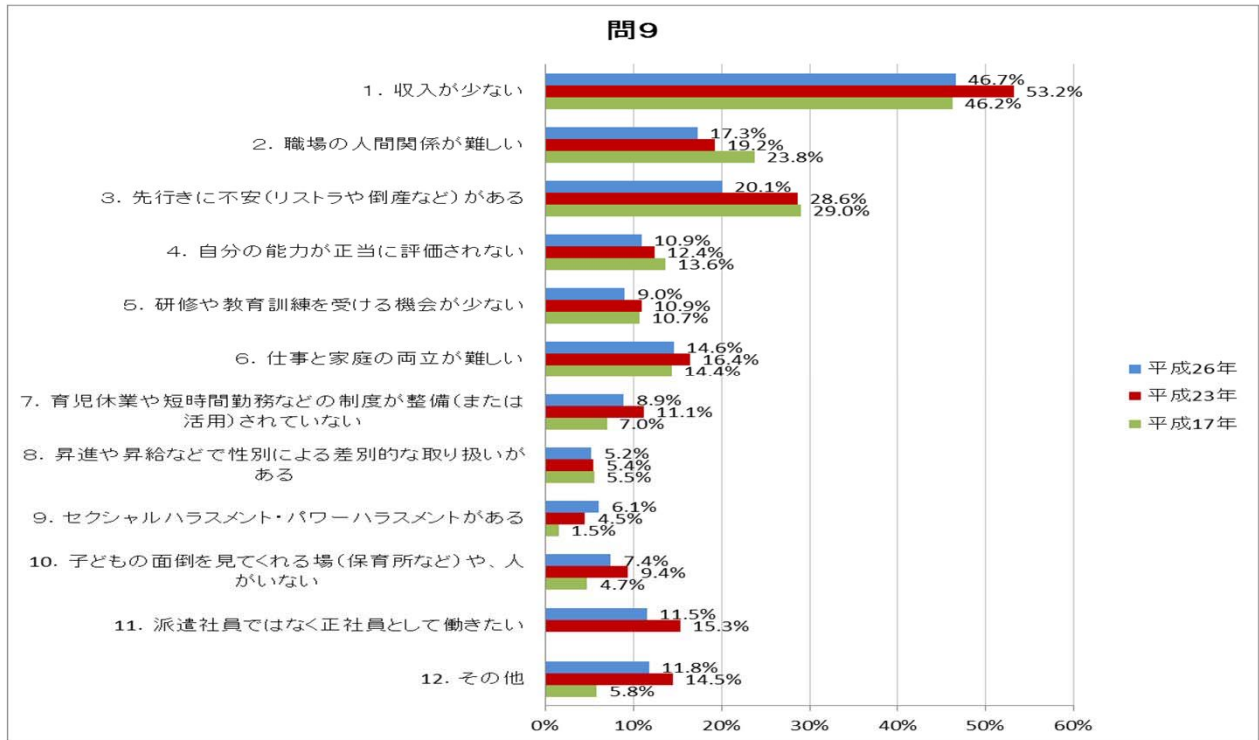
地球温暖化が深刻な環境問題となっています。温暖化を防止するために行政や住民、事業所では、どんな取り組みを進めることが必要だと考えます



◆前回調査時と比較すると、「太陽や風力、水力、地熱などの再生可能エネルギーを活用した発電施設を増やす」「暖房や冷房の設定温度をおさえてエネルギー使用を節約する」の割合が増加し、「一般住宅等への太陽光発電の設置を進める」「電気の使用量を減らす」の割合が減少した。

問9

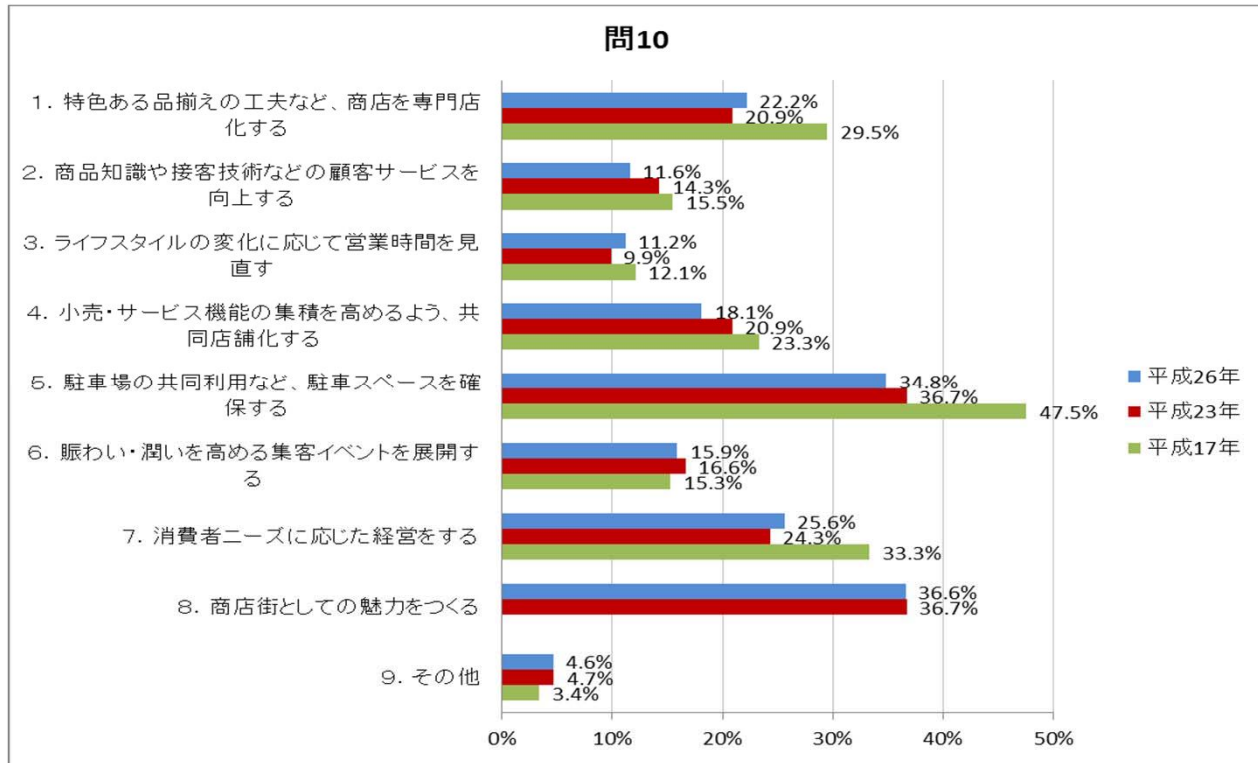
あなたは、働いている環境に不満や悩みがありますか。



◆前回調査時と比較すると、「セクシャルハラスメント・パワーハラスメントがある」の割合が増加し、「先行きに不安(リストラや倒産など)がある」の割合が減少した。

問10

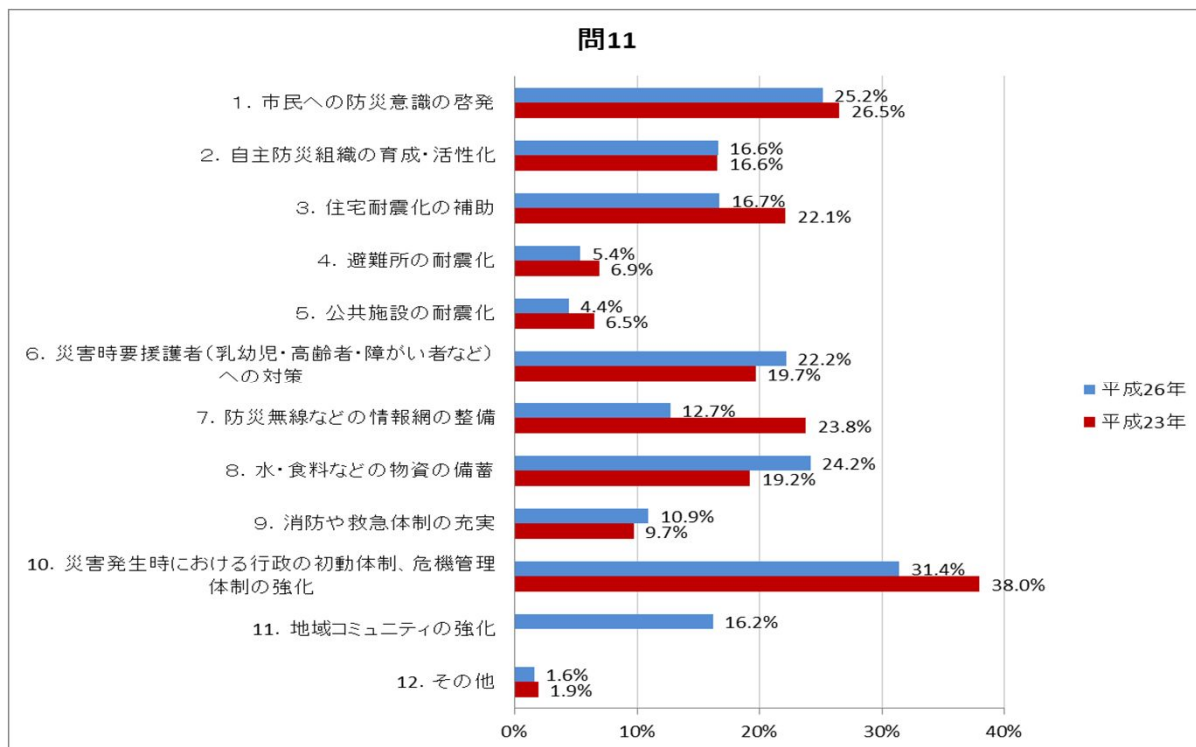
市内の各地域の既存商店街が活性化するためには、どのようなことが必要でしょうか。



◆「商店街としての魅力をつくる」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「特色ある品揃えの工夫など、商店を専門店化する」「ライフスタイルの変化に応じて営業時間を見直す」「消費者ニーズに応じた経営をする」の割合が増加し、「小売・サービス機能の集積を高めるよう、共同店舗化する」の割合が減少した。

問11

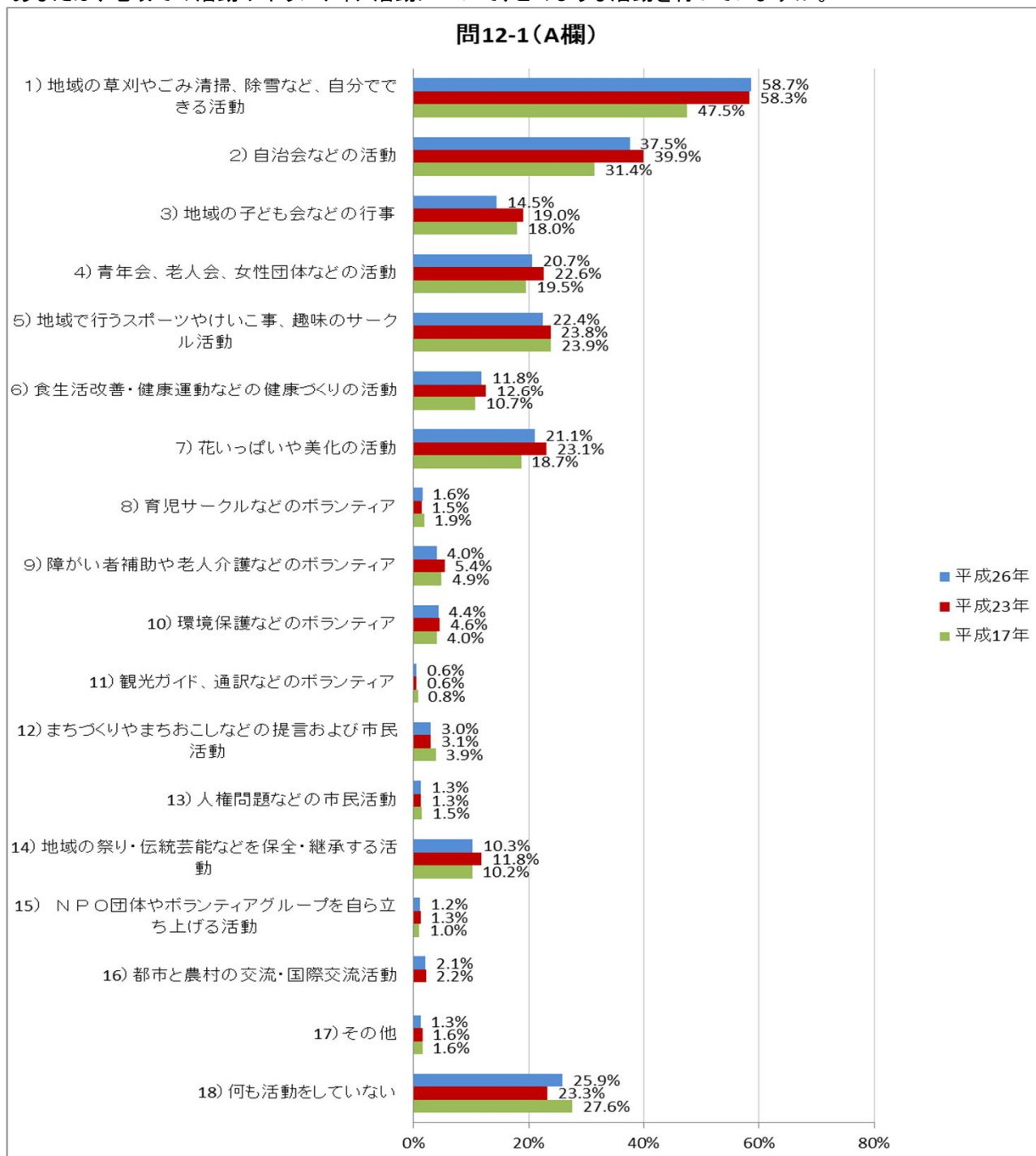
災害に強いまちづくりに向け、最も重要だと思われる取り組みは何ですか。



◆前回調査時と比較すると、「水・食料などの物資の備蓄」「災害時要援護者(乳幼児・高齢者・障がい者など)への対策」の割合が増加し、「防災無線などの情報網の整備」「災害発生時における行政の初動体制、危機管理」の割合が減少した。

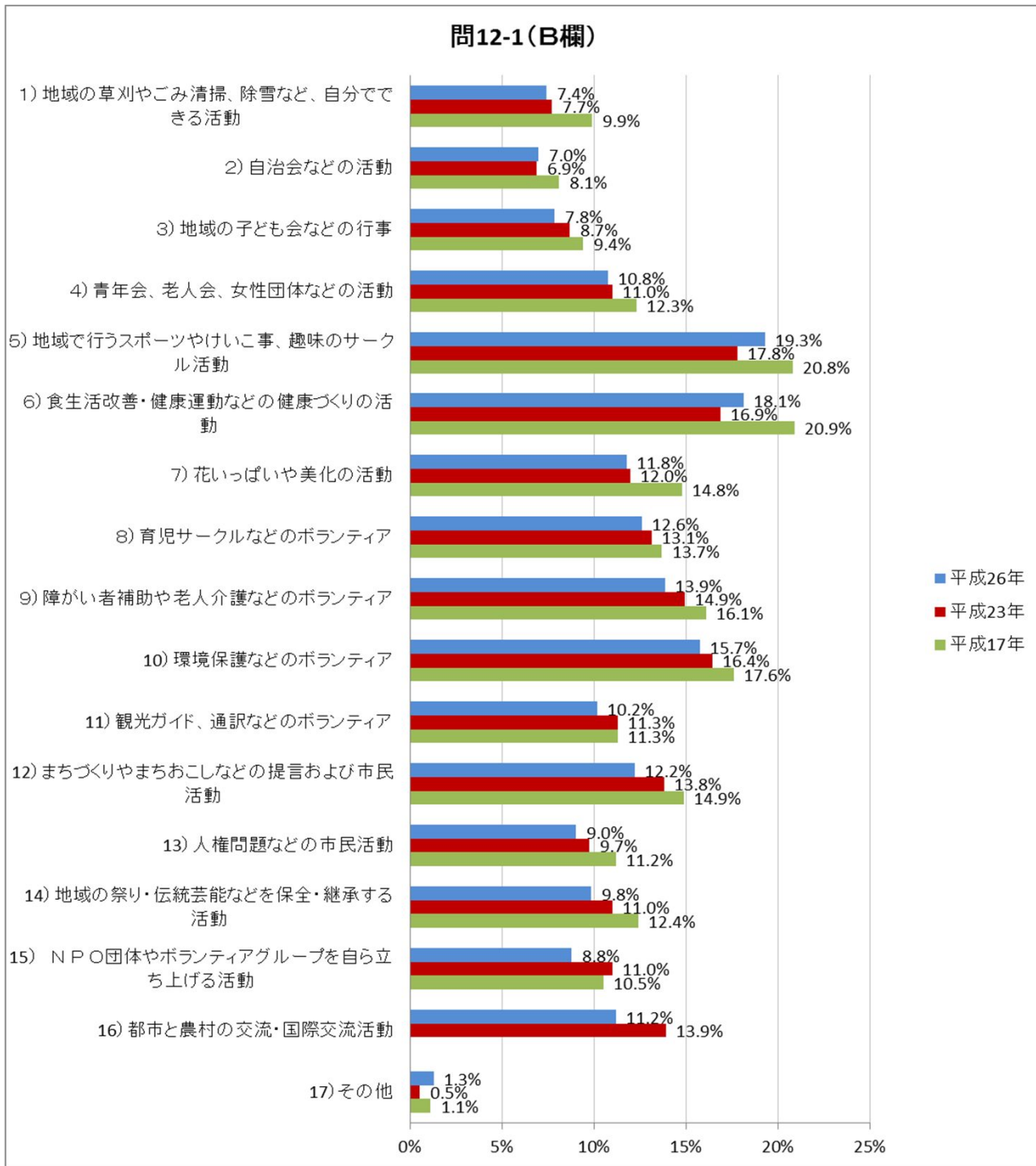
問12-1

あなたは、地域での活動やボランティア活動について、どのような活動を行っていますか。



◆前回調査時と比較すると、「何も活動をしていない」の割合が増加した。

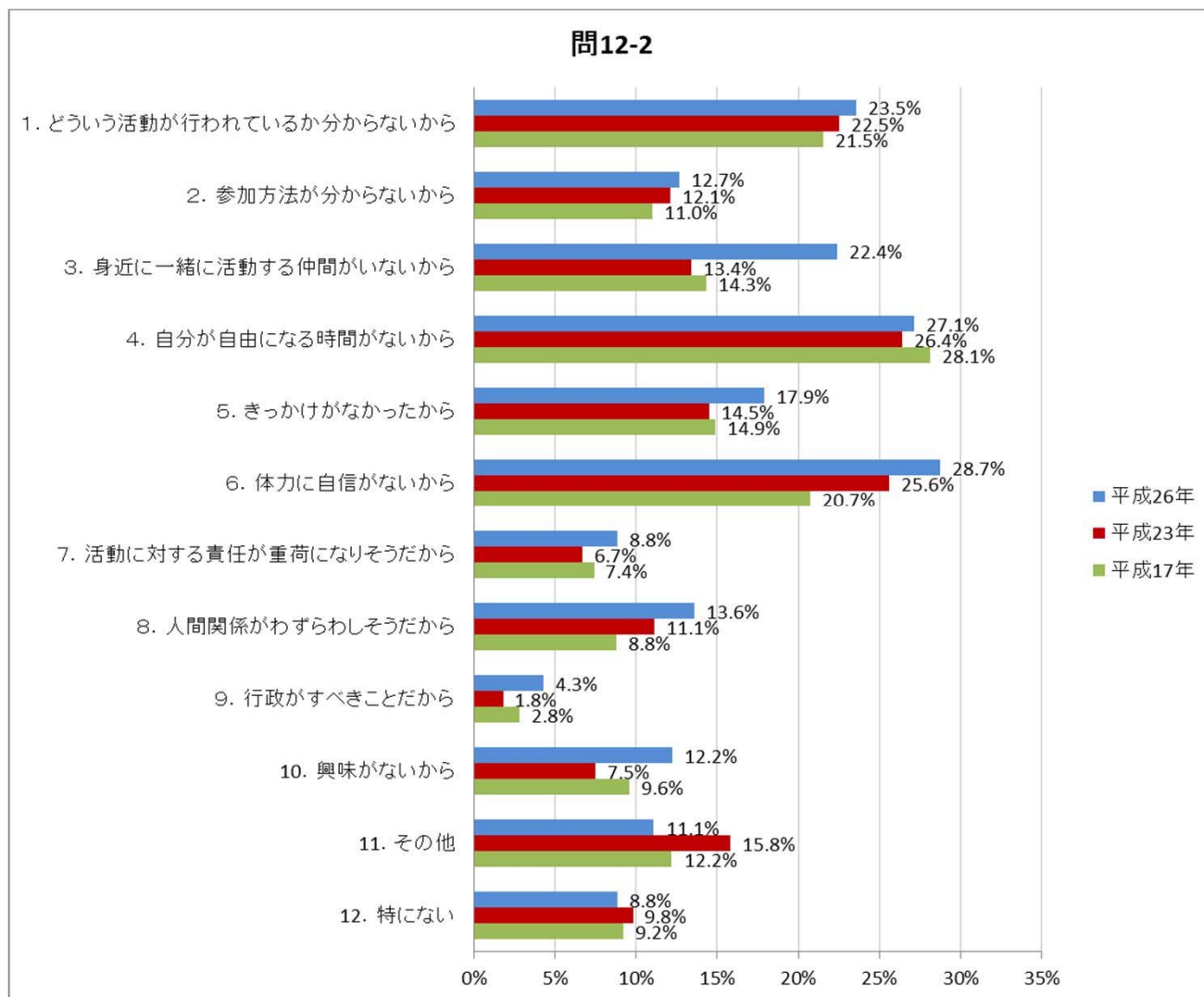
また、これから活動してみたいのはどんな活動ですか。



◆前回調査時と比較すると、「地域で行うスポーツやけいこ事、趣味のサークル活動」「食生活改善・健康運動などの健康づくりの活動」「自治会などの活動」の割合が増加し、そのほかの項目の割合は減少した。

問12-2

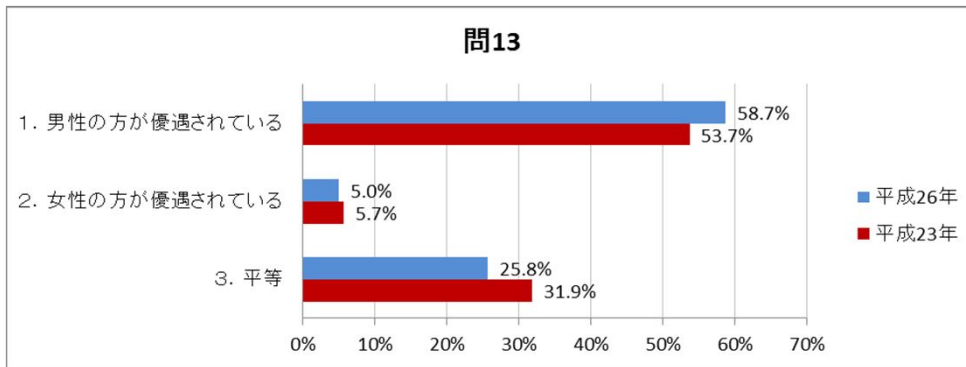
何も活動していないのは、どのような理由からですか。



◆前回調査時と比較すると、「身近に一緒に活動する仲間がないから」「興味がないから」「きっかけがなかったから」「体力に自信がないから」の割合が増加した。

問13

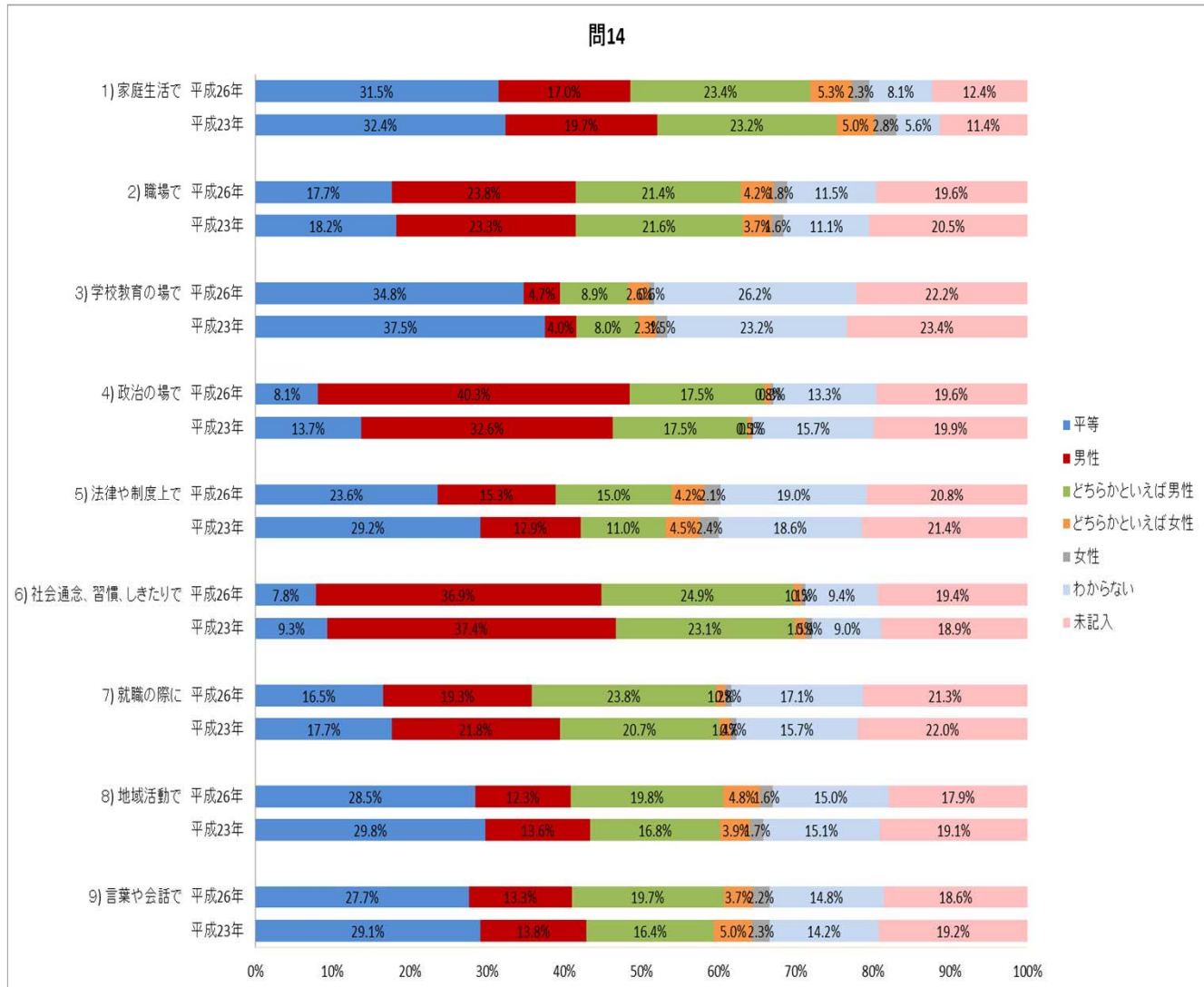
あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。



◆前回調査時と比較すると、「男性の方が優遇されている」が5ポイント増加し、「平等」の割合が6.1ポイント減少した。

問14

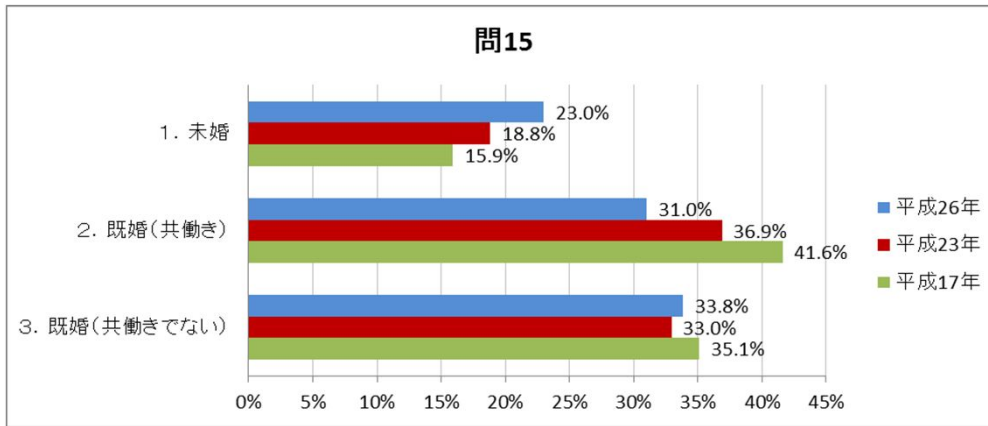
次にあげる1)～9)の場面において、あなたの身の回りでは男女平等になっていると思いますか。



◆前回調査時と比較すると、全項目において「平等」が減少し、総じて「男性」の割合が増加した。

問15

あなたは現在、結婚されていますか。共働きですか。

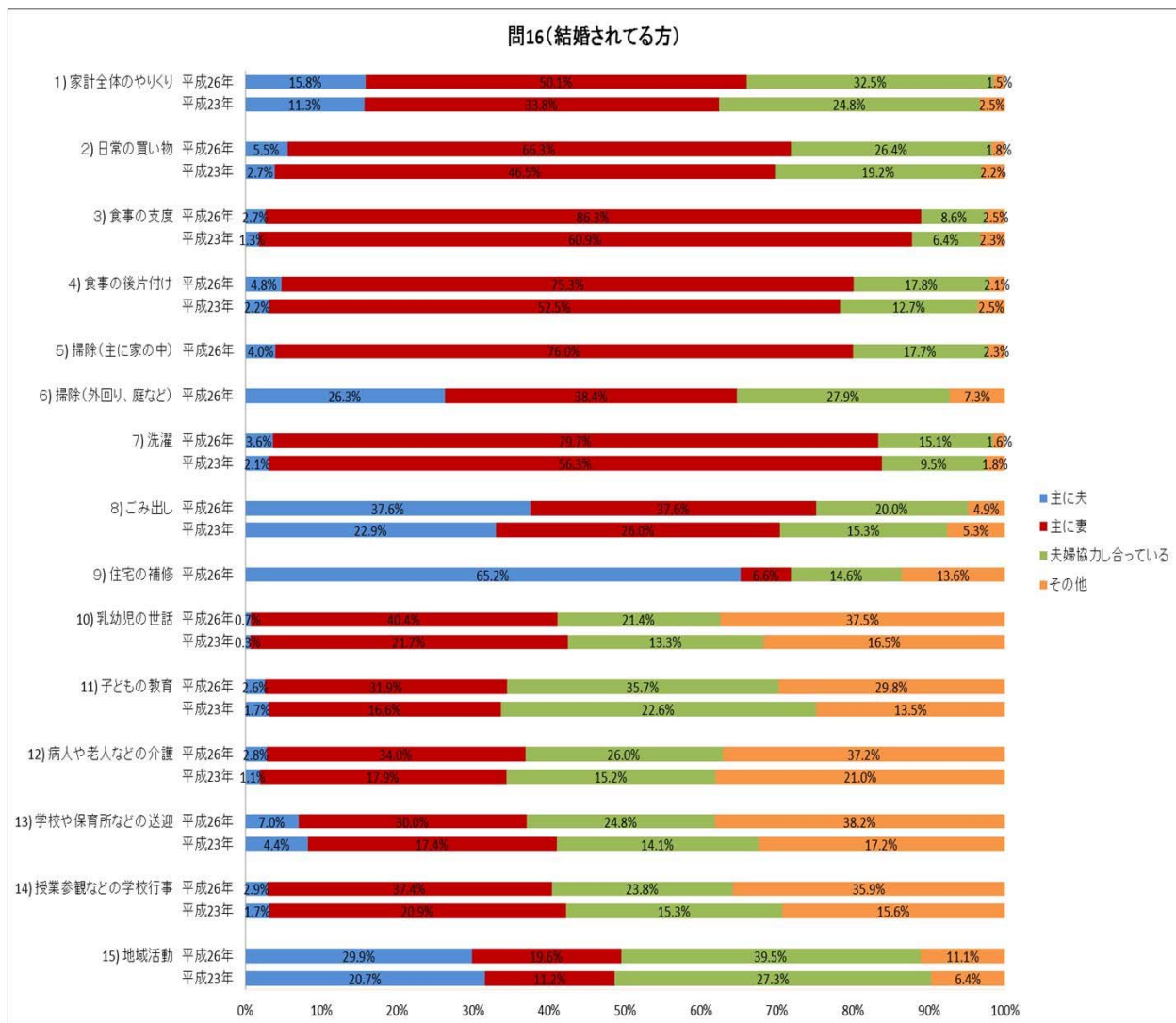


◆前回調査時と比較すると、「未婚」の割合が増加し、「既婚(共働き)」の割合が減少した。

問16

家庭での役割分担について、お聞きします。

結婚されている方にお聞きします。あなたの家庭では次の1)～15)の家事などを主に誰が行っていますか。

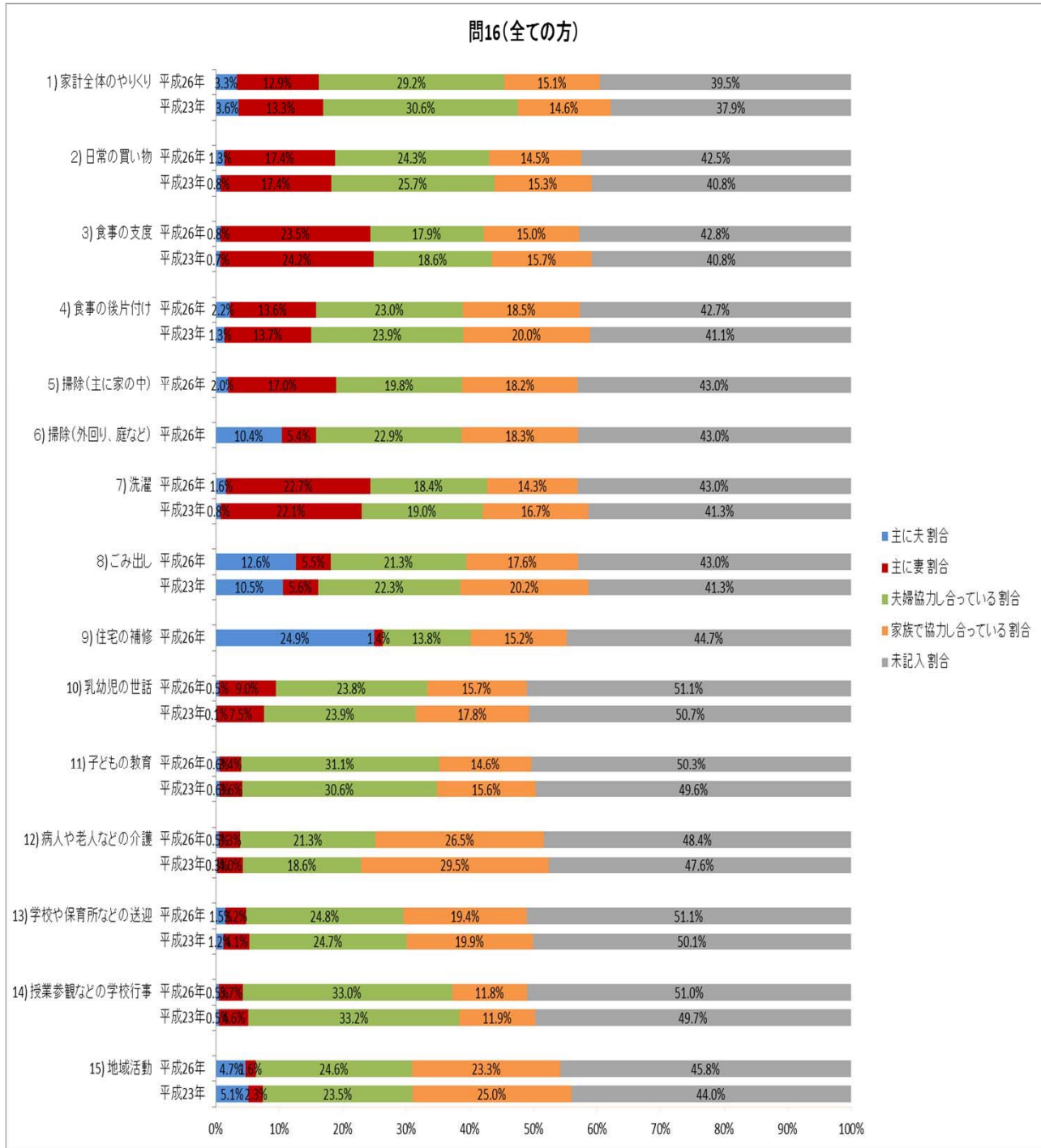


◆主に夫の役割分担は「住宅の補修」「ごみ出し」「地域活動」の割合が高く、主に妻の役割分担は「食事の支度」「洗濯」「食事の後片付け」の割合が高い。

問16

家庭での役割分担について、お聞きします。

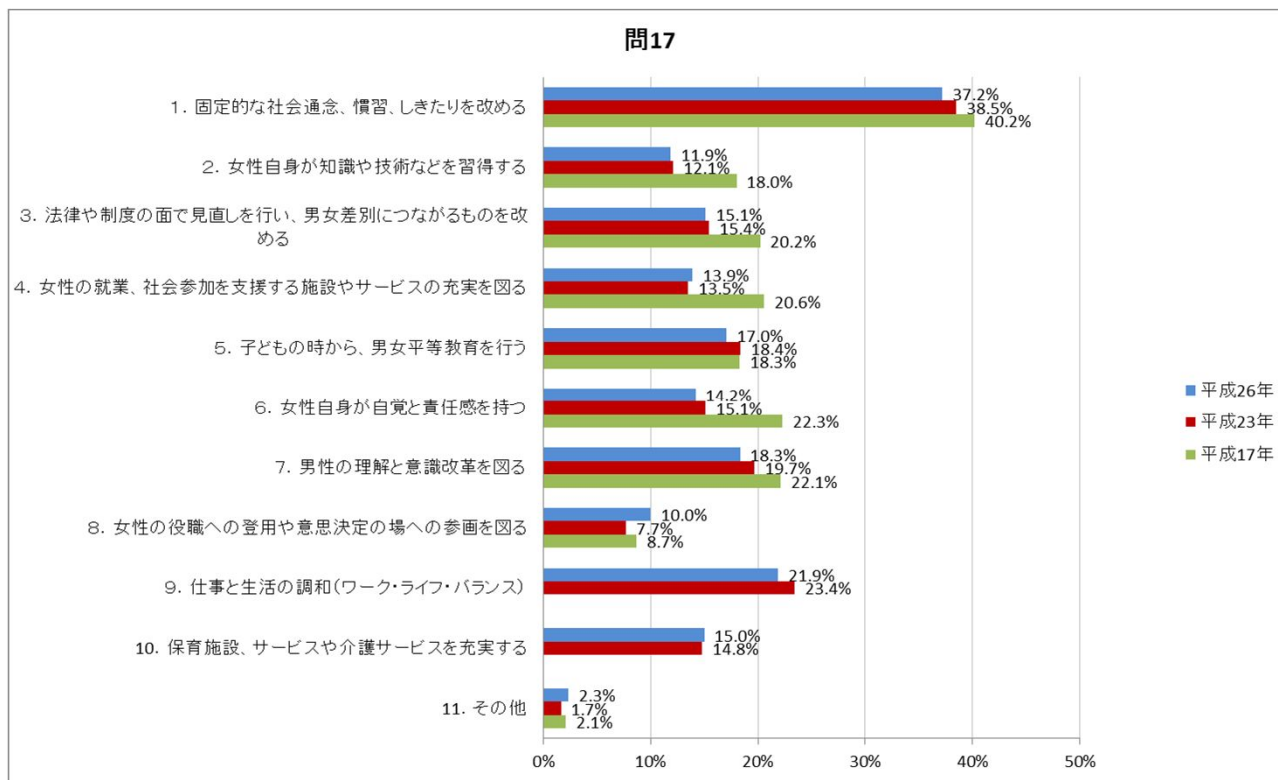
全ての方にお聞きします。次の1)～15)の家事などの分担はどのような形が望ましいとお考えですか。



◆主に夫の役割は「ごみ出し」「住宅の補修」の割合が高く、主に妻の役割は「食事の支度」「洗濯」の割合が高い。夫婦協力し合う割合は「授業参観などの学校行事」の割合が高く、家族で協力し合う割合は「病人や老人などの介護」の割合が高い。

問17

あなたは、「男女共同参画社会」を築いていくために、どんなことが重要だと思いますか。



◆「固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」「仕事と生活の調和(ワークライフバランス)」の割合が高い。

問18

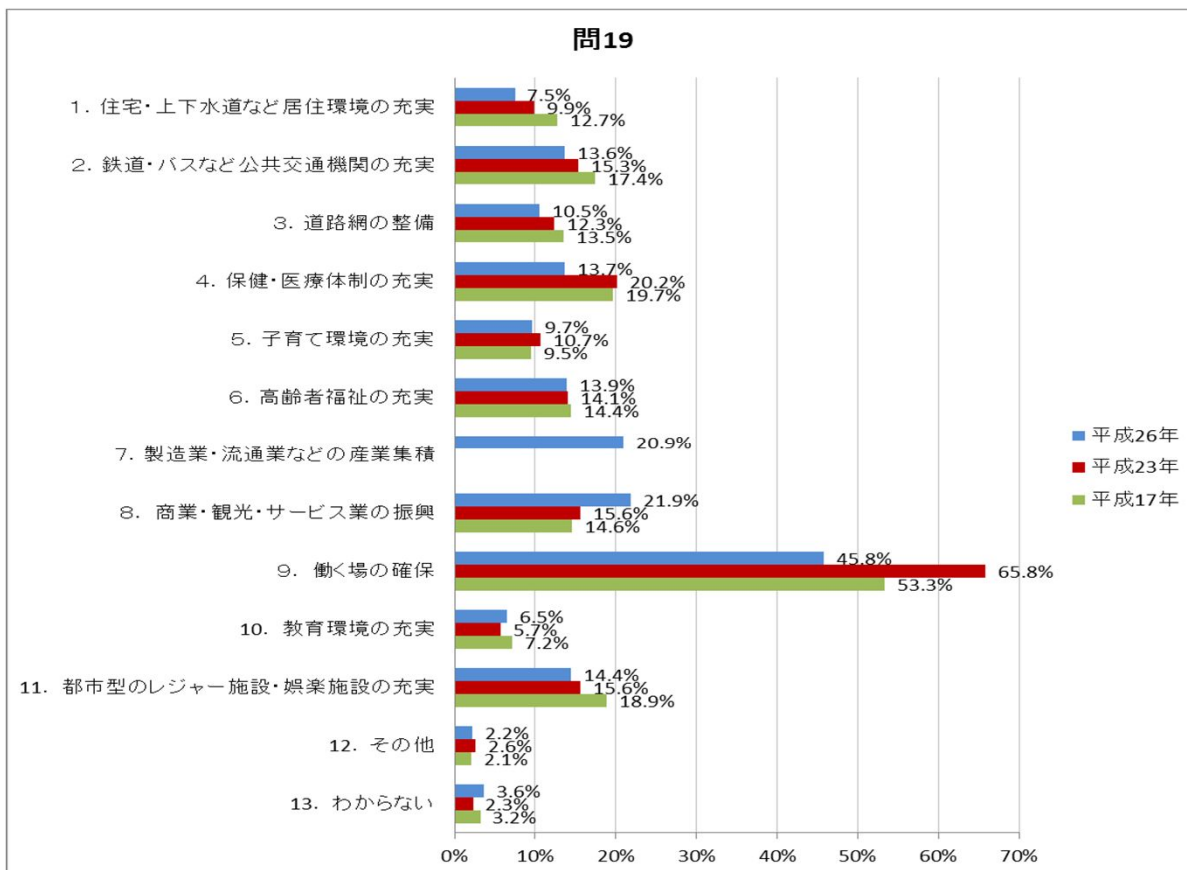
あなたはILCの実現に伴って地域にどのようなことを期待しますか。



◆「地元産業の発展」の割合が高い。

問19

一関市が中東北(岩手県南から宮城県北までの地域)の拠点として発展していくために、
 どのような分野に力を入れていくべきとお考えです

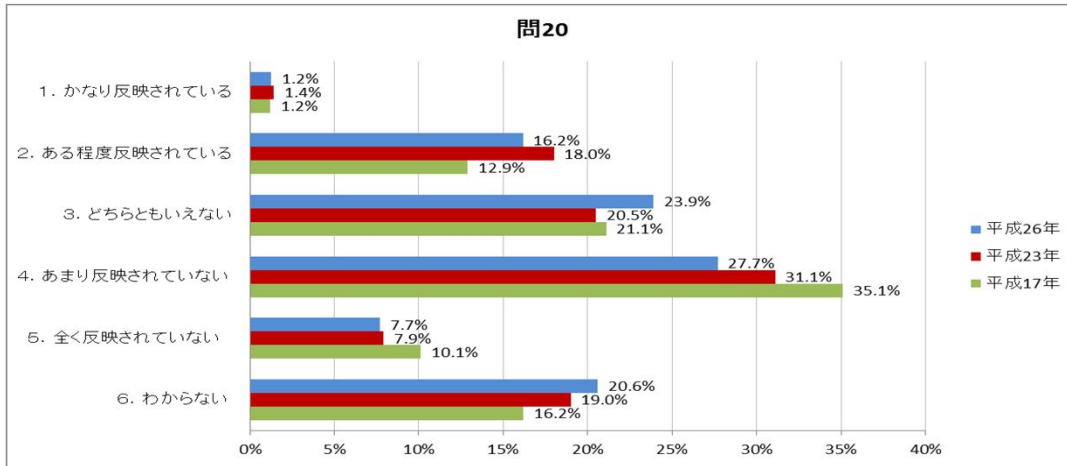


◆「働く場の確保」の割合が高い。H26新規追加した「製造業・流通業などの産業集積」は20.9%だった。

市民アンケート

問20

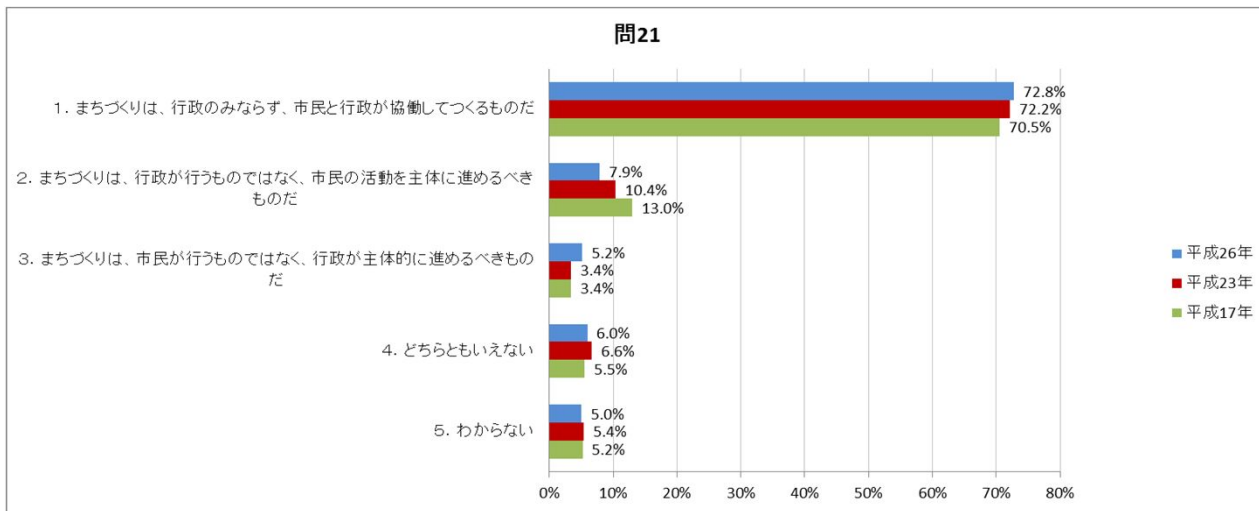
あなたは、市政全般について、市民の考えや意見がどの程度反映されていると思いますか。



◆総じて、「反映されている」は17.4%、「反映されていない」は35.4%だった。前回調査時と比較すると、総じて「反映されている」は2ポイント減少し、「反映されていない」は3.6ポイント減少した。「どちらともいえない」「わからない」が増加した。

問21

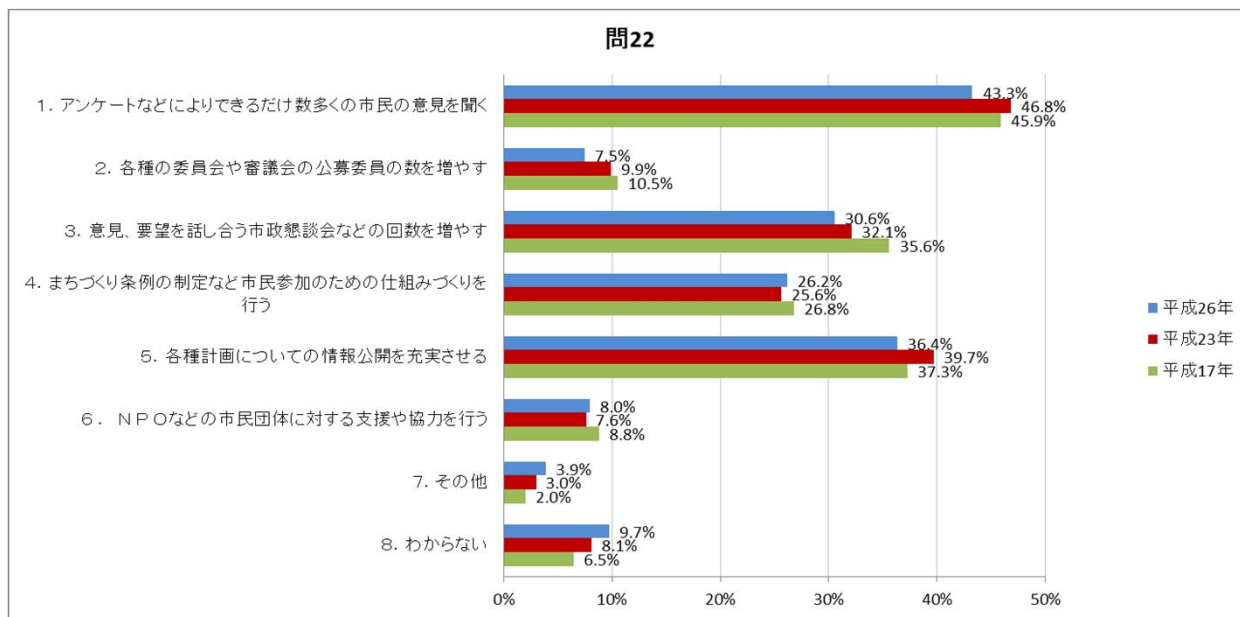
まちづくりに関する次の意見のうち、あなたの考えに近いものは何ですか。



◆「まちづくりは、行政のみならず、市民と行政が協働してつくるものだ」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「まちづくりは市民が行うものではなく、行政が主体的に進めるべきもの」が増加し、「まちづくりは行政が行うものではなく、市民の活動を主体に進めるべき」が減少した。

問22

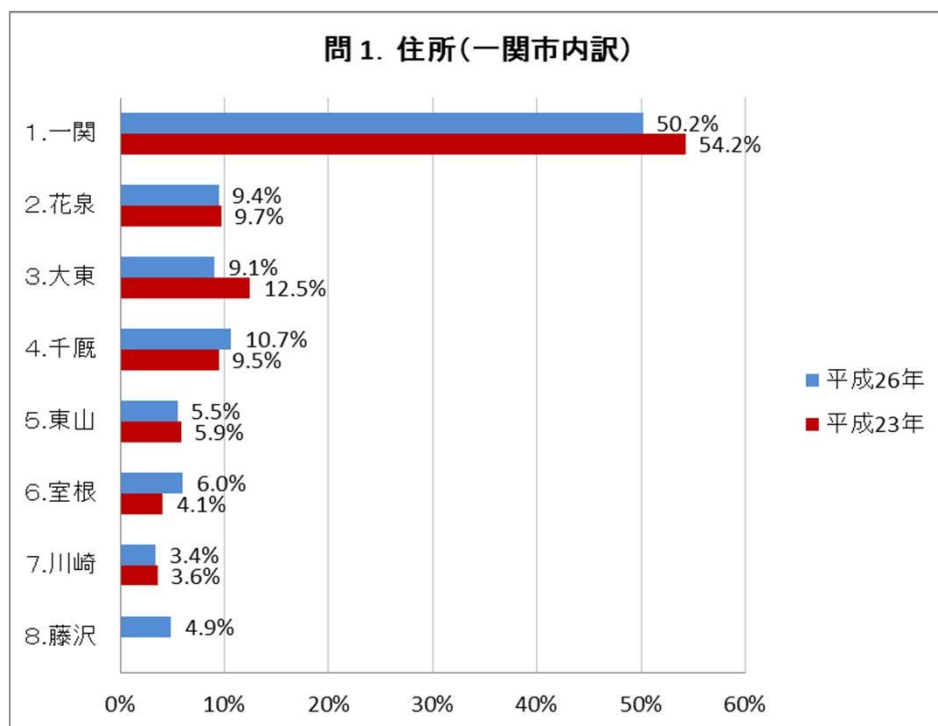
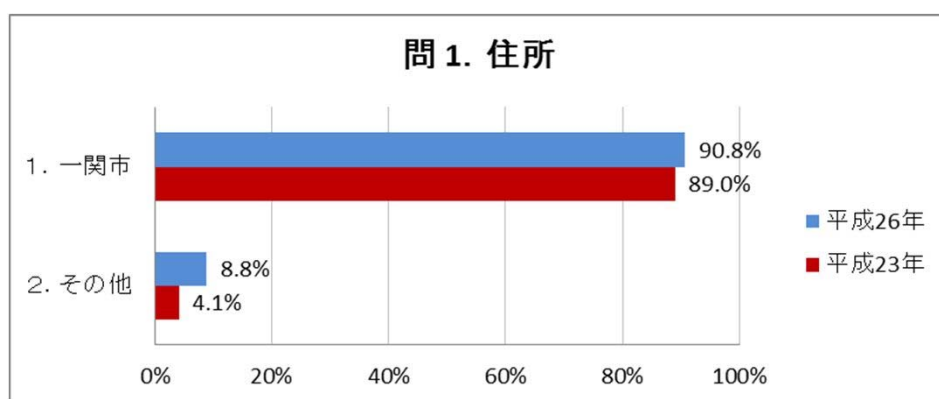
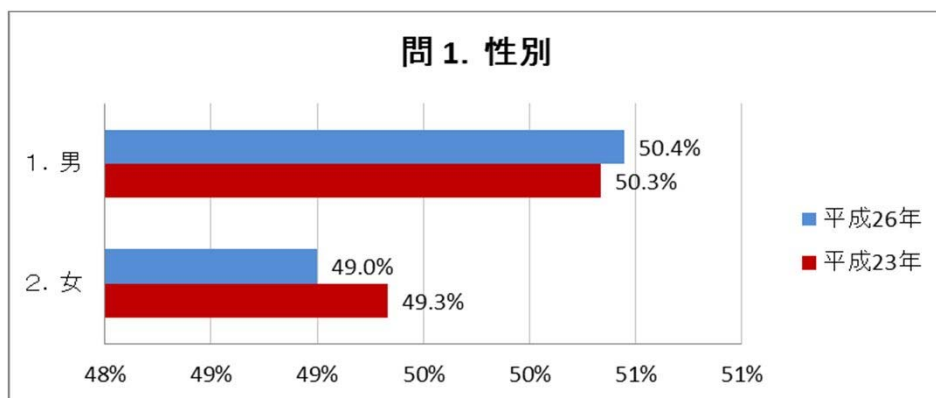
市政への市民参加をより活発にするために、あなたは、市が特にどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか

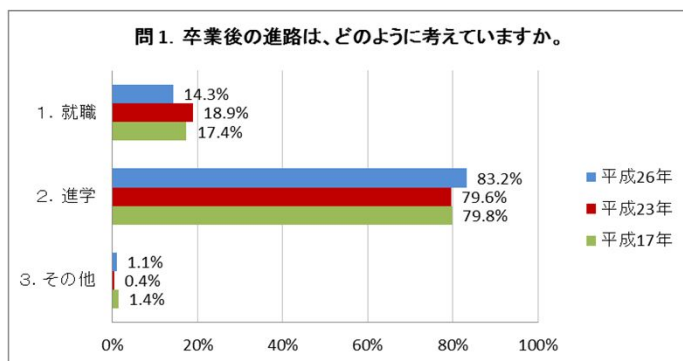


◆「アンケートなどによりできるだけ数多くの市民の意見を聞く」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「まちづくり条例の制定など市民参加のための仕組みづくりを行う」「わからない」が増加した。

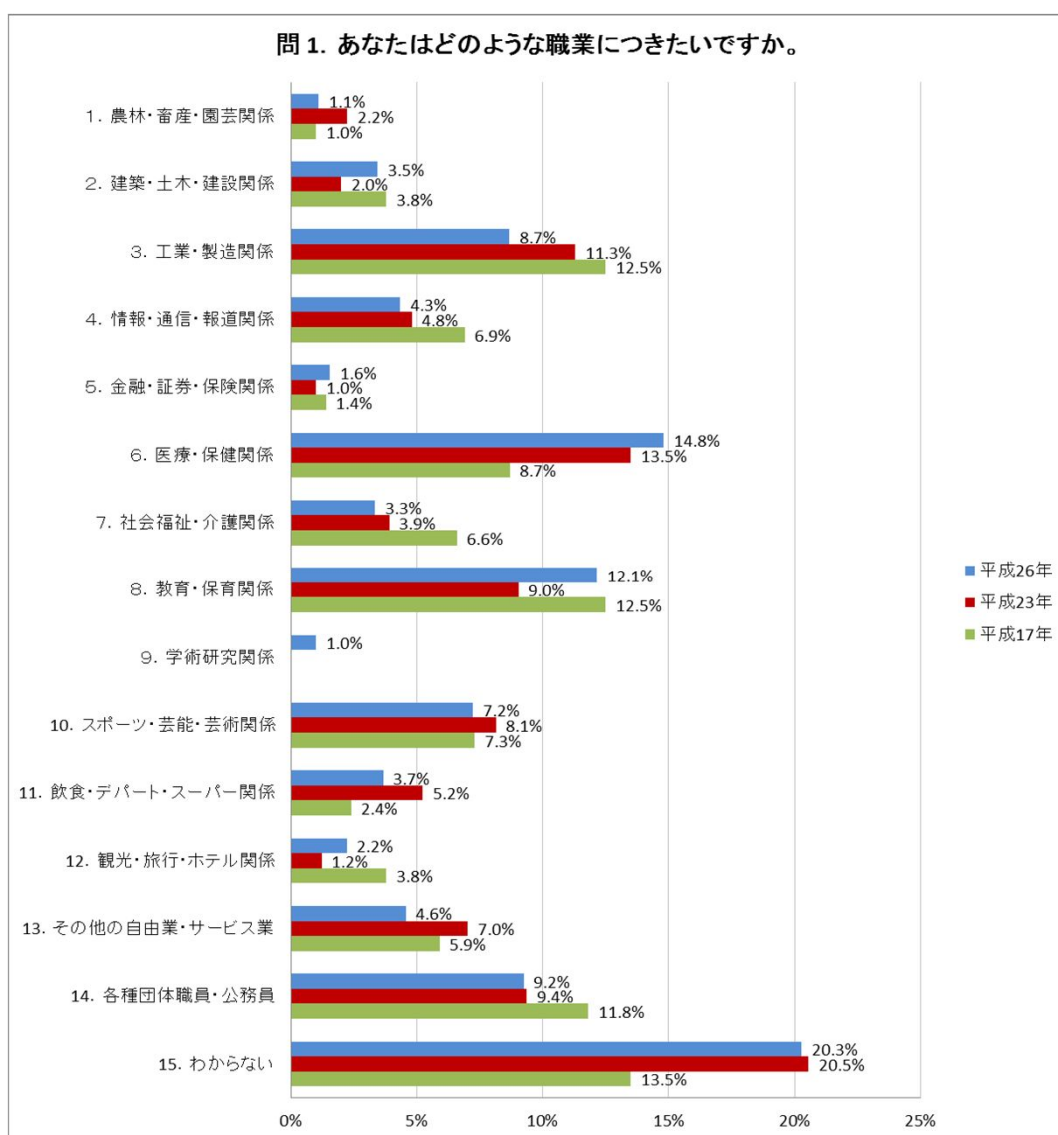
問1

あなたご自身のことについてお聞きします。





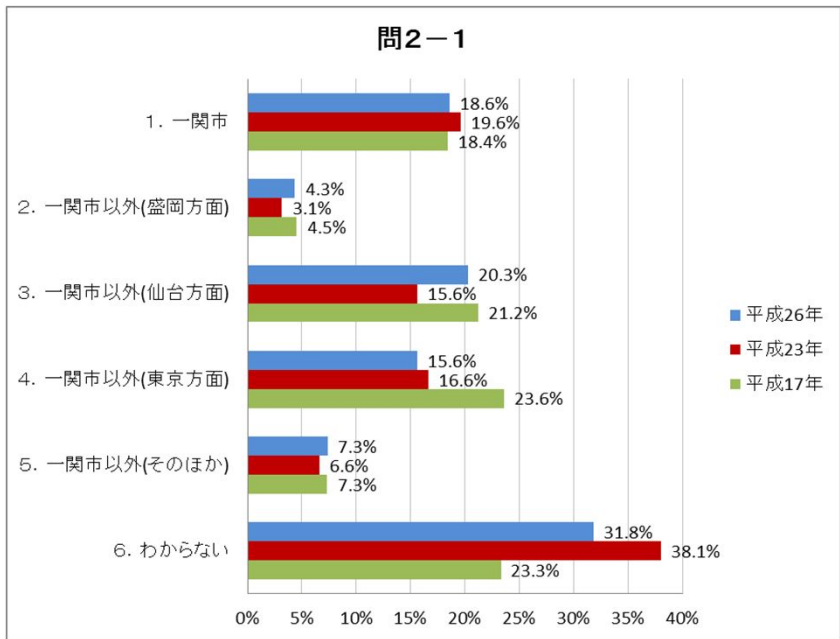
◆「進学」は83.2%、「就職」は14.3%だった。前回調査時と比較すると、「進学」は3.6ポイント増加し、「就職」は4.6ポイント減少した。



◆「わからない」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「教育・保育関係」「医療・保健関係」の割合は増加し、「工業・製造業」「自由業・サービス業」の割合は減少した。

問2-1

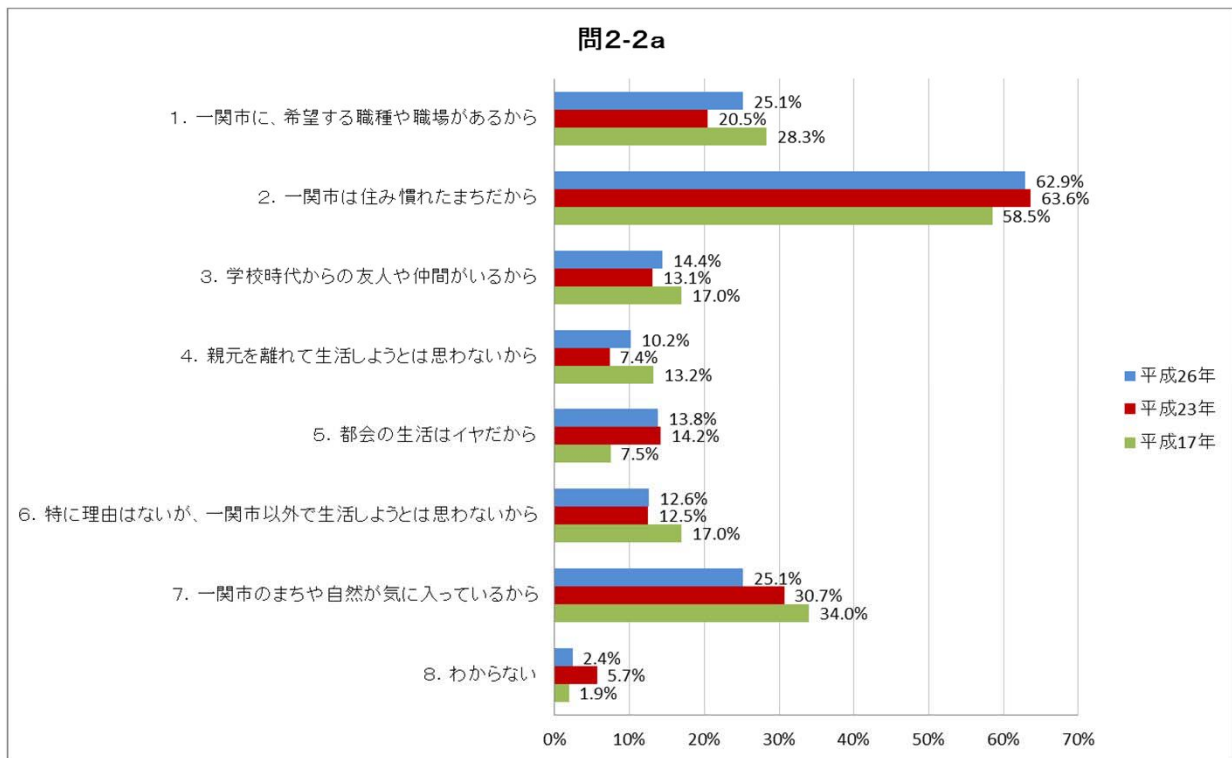
将来、どの地域への就職を希望しますか。



◆前回調査時と比較すると、総じて「一関市以外」の割合は増加し、「一関市」の割合は減少した。

問2-2a

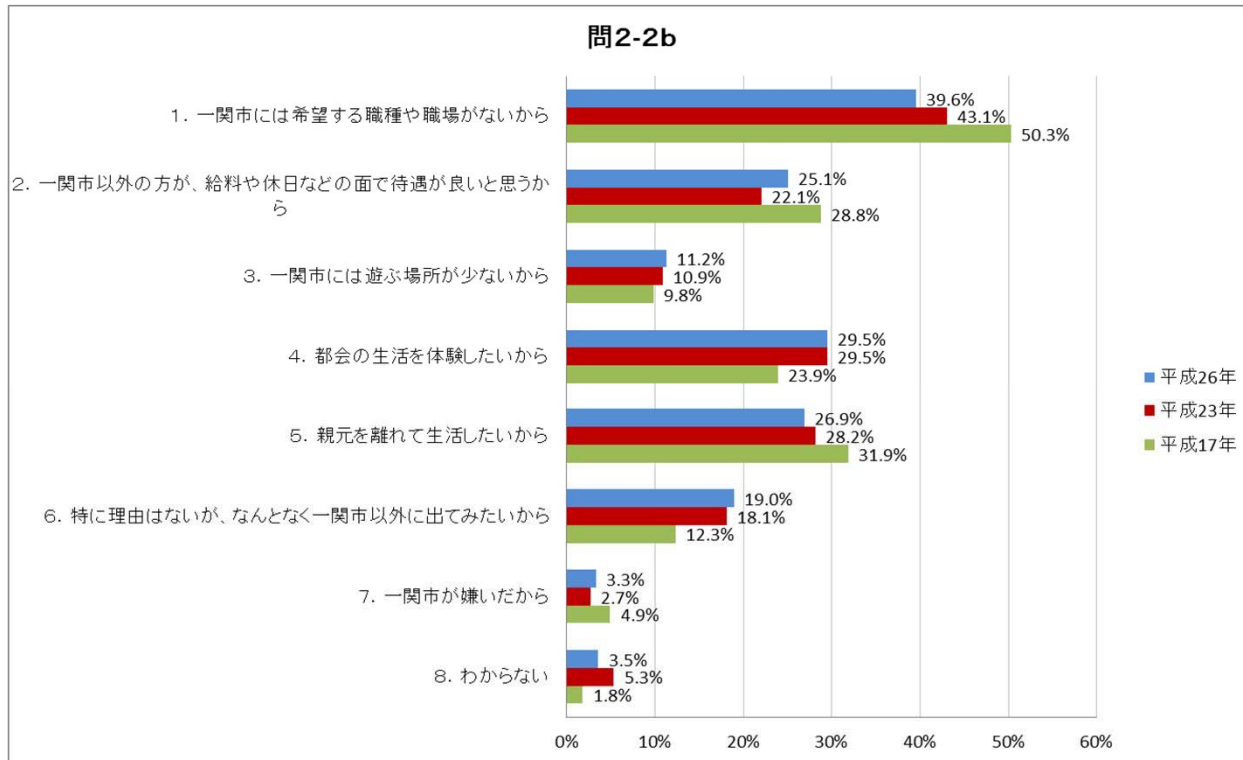
一関市に就職を希望するのはなぜですか。



◆「一関市は住み慣れたまちだから」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「一関市に希望する職種や職場があるから」の割合が増加し、「一関市のまちや自然が気に入っているから」の割合が減少した。

問2-2b

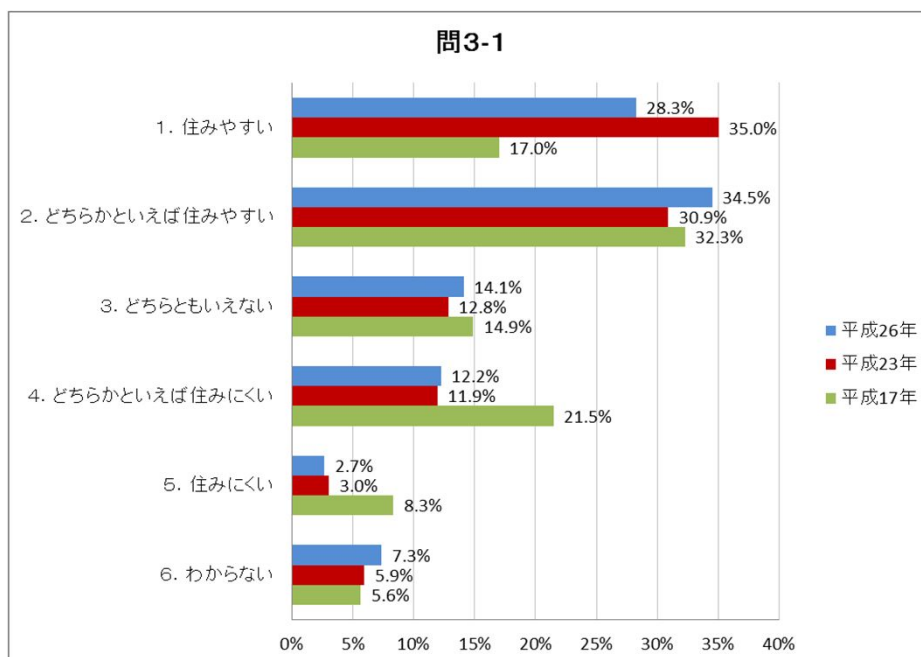
一関市以外に就職を希望するのはなぜですか。



◆「一関市には希望する職種や職場がないから」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「一関市以外の方が給料や休日などの面で待遇が良いと思うから」の割合が増加した。

問3-1

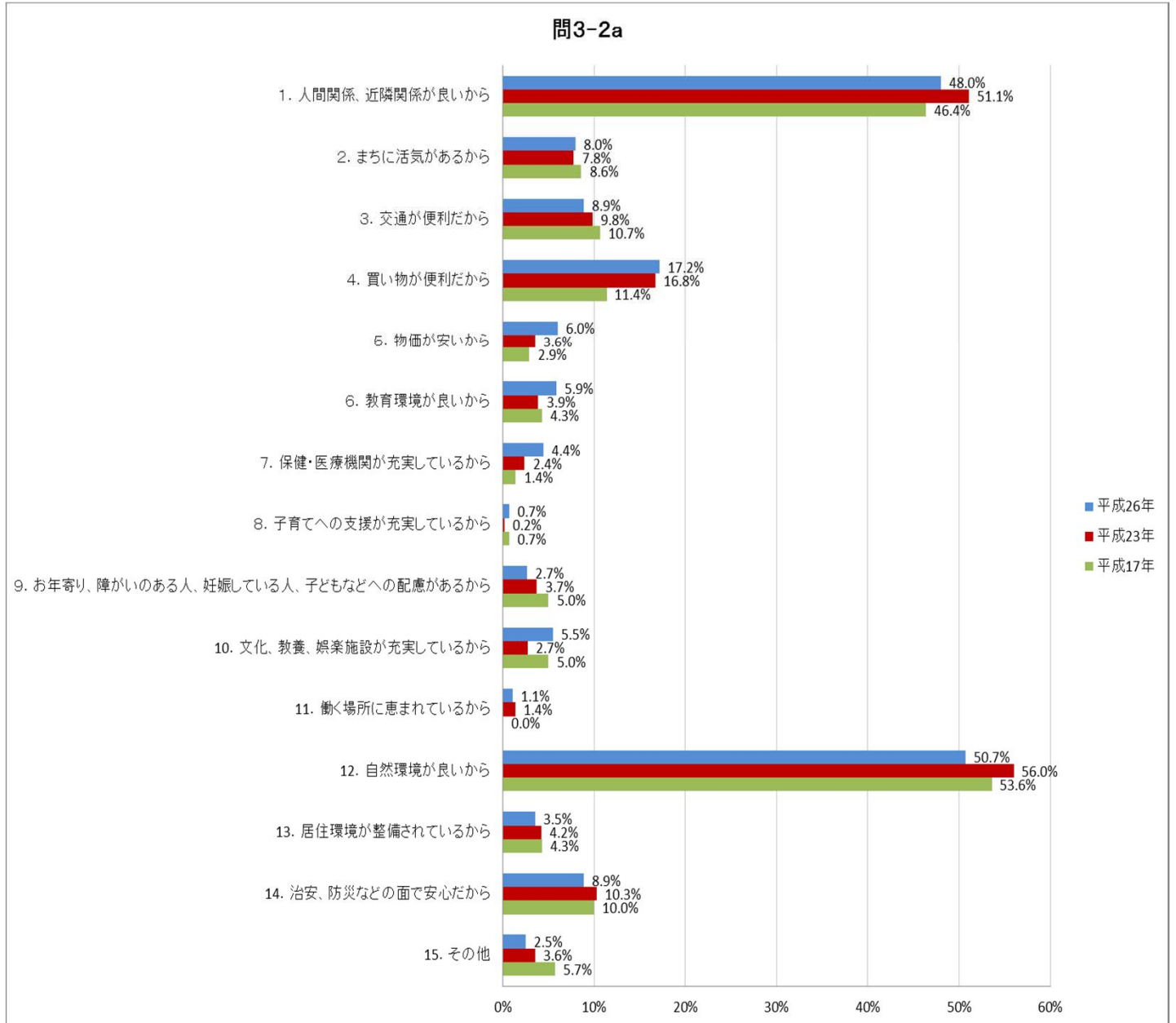
あなたは、一関市の住みやすさについて、どのように感じていますか。



◆総じて、住みやすいは62.8%、住みにくいは14.9%だった。前回調査時と比較すると、総じて住みやすいは3.1ポイント減少した。

問3-2a

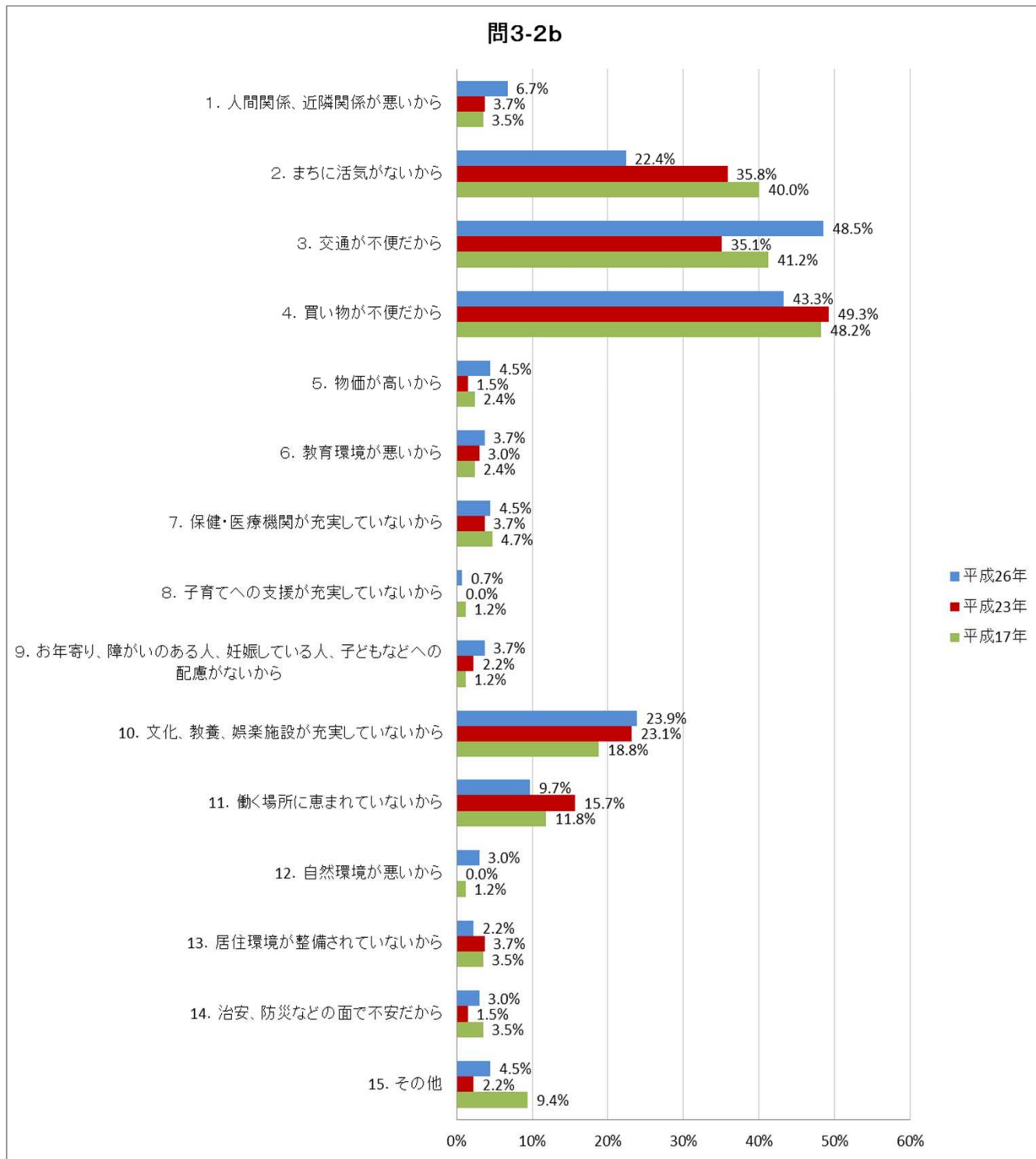
それはどのような理由からですか。(住みやすい)



◆「自然環境が良いから」「人間関係、近隣関係が良いから」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「文化、教養、娯楽施設が充実しているから」「物価が安いから」の割合が増加し、「自然環境が良いから」の割合が減少した。

問3-2b

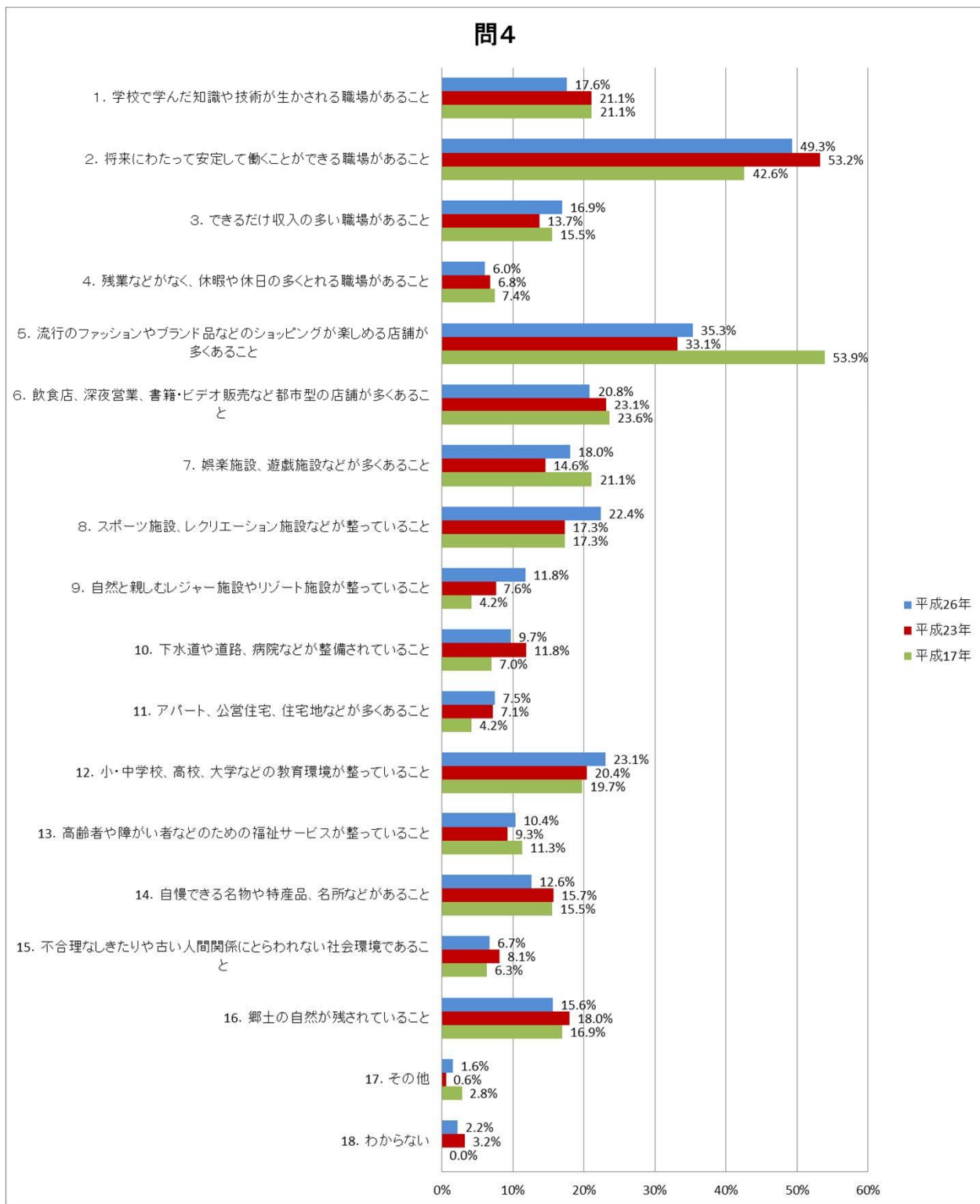
それはどのような理由からですか。(住みにくい)



◆「交通が不便だから」「買い物が不便だから」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「交通が不便だから」「人間関係、近隣関係が悪いから」の割合が増加し、「まちに活気がないから」「買い物が不便だから」「働く場所に恵まれていないから」の割合が減少した。

問4

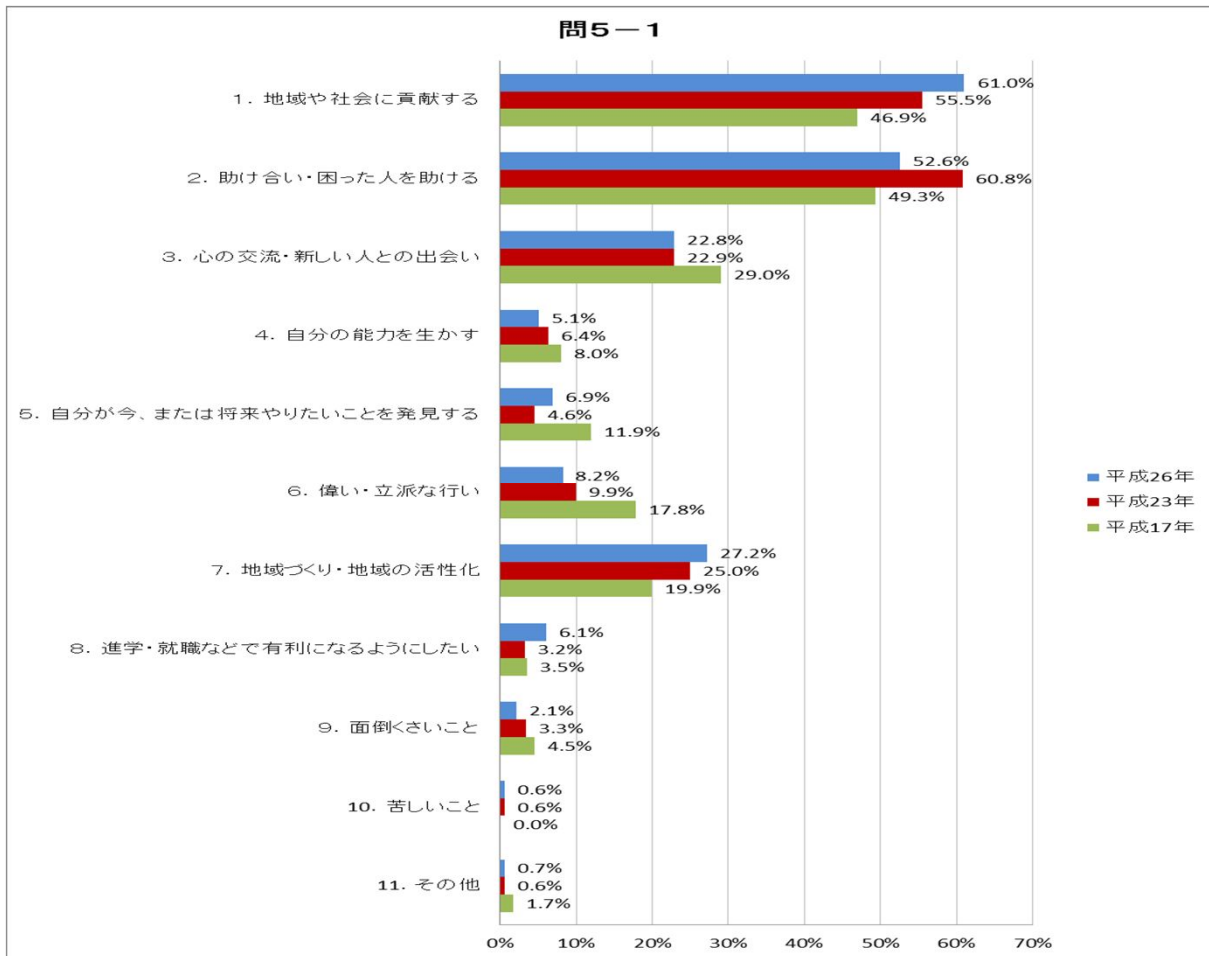
この地域が若者にとって魅力的な地域となるには、どのような点が特に必要だと思いますか。



◆「将来にわたって安定して働くことができる職場があること」「流行のファッションやブランド品などのショッピングが楽しめる店舗が多くあること」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「スポーツ施設、レクリエーション施設などが整っていること」「自然と親しむレジャー施設やリゾート施設が整っていること」の割合が増加し、「学校で学んだ知識や技術が生かされる職場があること」「将来にわたって安定して働くことができる職場があること」の割合が減少した。

問5-1

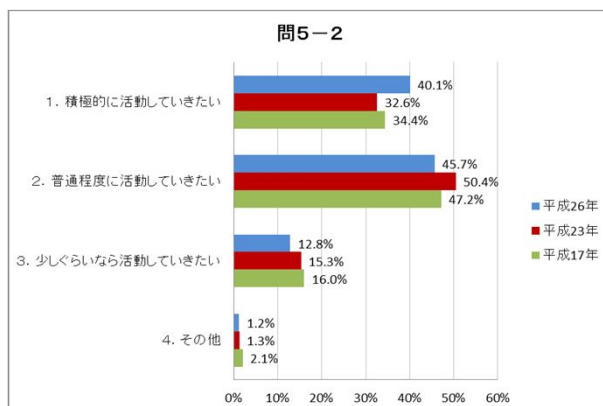
あなたは、地域活動やボランティア活動について、どのようなイメージや考えをお持ちですか。



◆「地域や社会に貢献する」「助け合い・困った人を助ける」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「地域や社会に貢献する」「進学・就職などで有利になるようにしたい」の割合が増加し、「助け合い・困った人を助ける」「面倒くさいこと」の割合が減少した。

問5-2

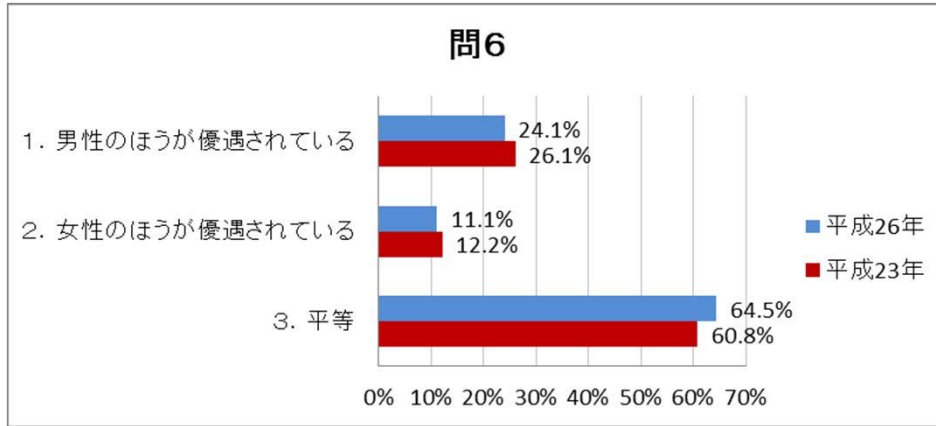
あなたは将来、地域活動やボランティア活動について、どのように取り組んでいきたいですか。



◆前回調査時と比較すると、「積極的に活動していきたい」は7.5ポイント増加し、「普通程度に活動していきたい」は4.7ポイント減少した。

問6

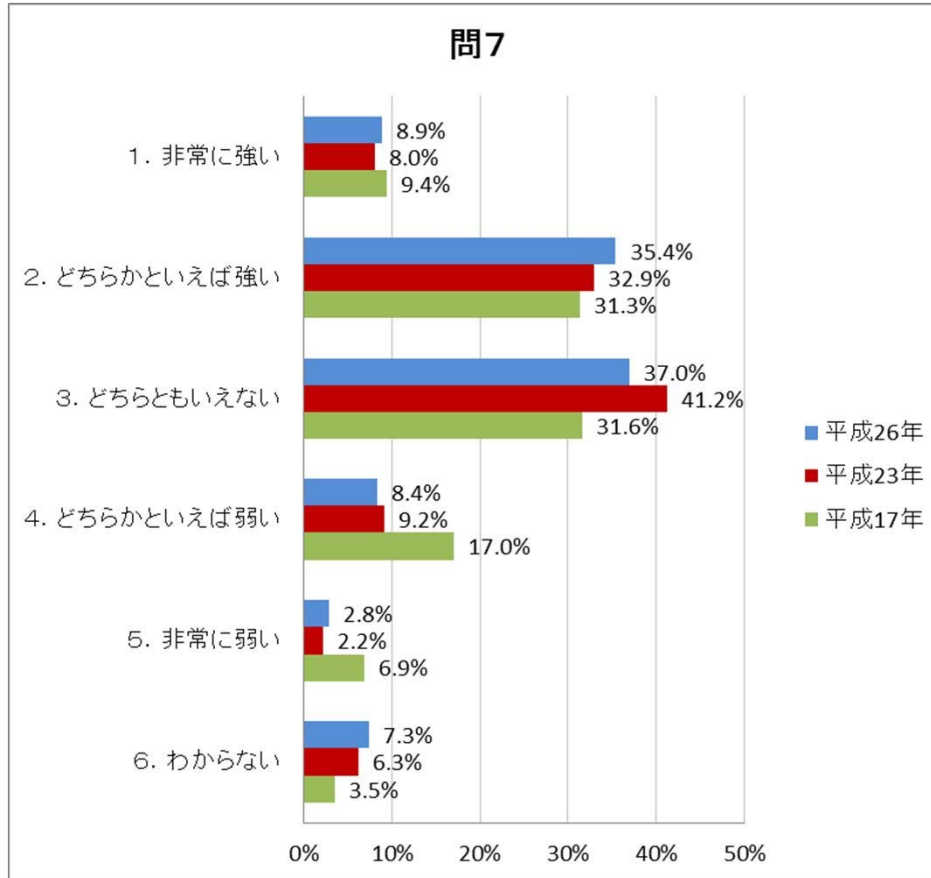
あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。



◆前回調査時と比較すると、「平等」が3.7ポイント増加し、「男性の方が優遇されている」の割合が2ポイント減少した。

問7

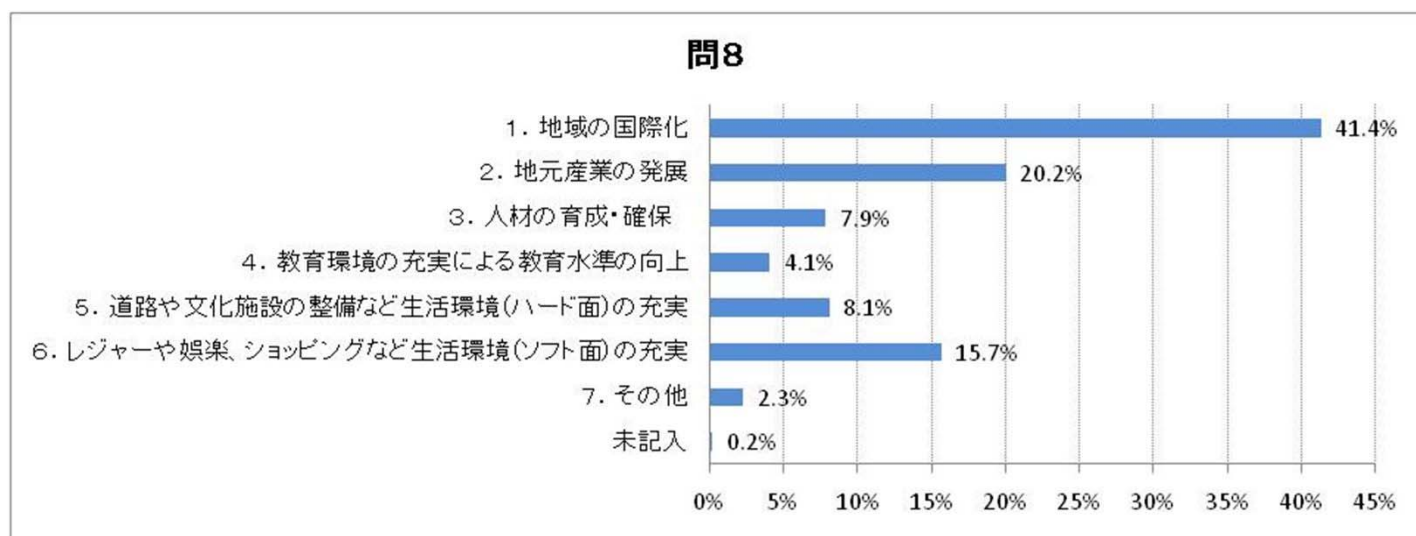
あなたは「自分のまちを愛する」という気持ちは強い方だと思いますか、それとも弱い方だと思いますか。



◆総じて、「強い」は44.3%、「弱い」は11.2%だった。前回調査時と比較すると、総じて「強い」は3.4ポイント増加し、「弱い」は0.2ポイント減少した。

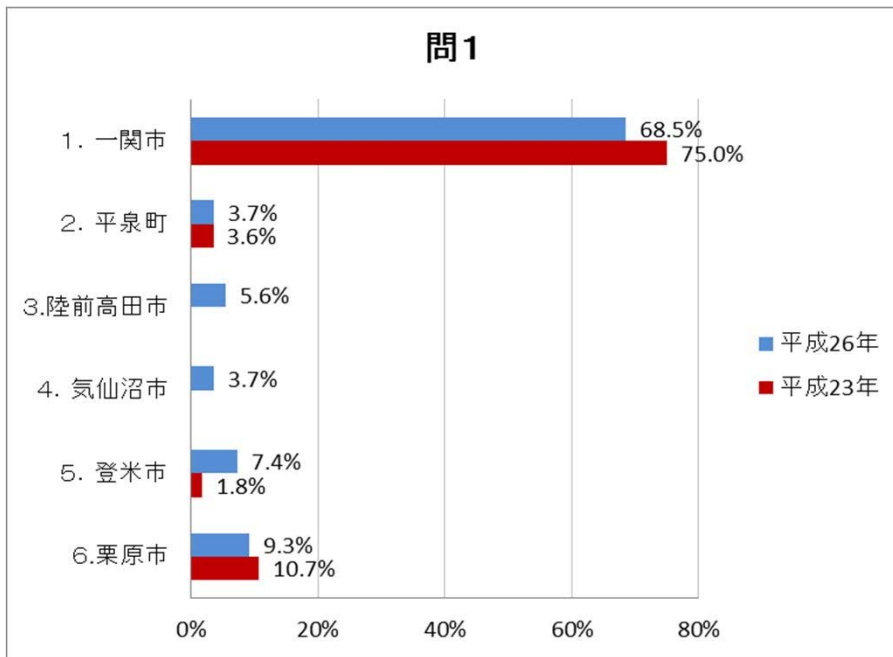
問8

あなたは、ILCの実現に伴って地域にどのようなことを期待しますか。

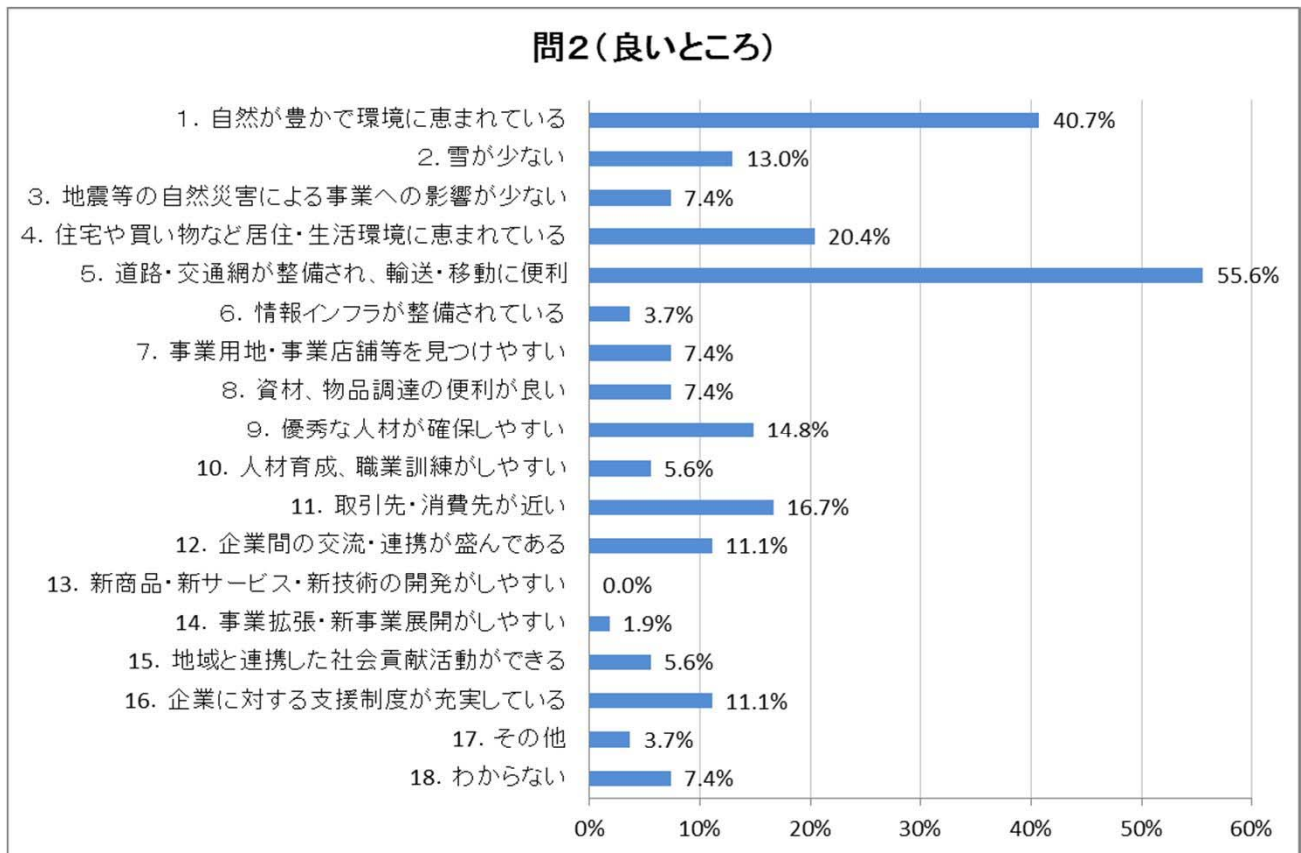


◆「地域の国際化」の割合が高い。

問1
あなたの所在地(当地の現地事務所、工場など)は、次のうちどちらですか。

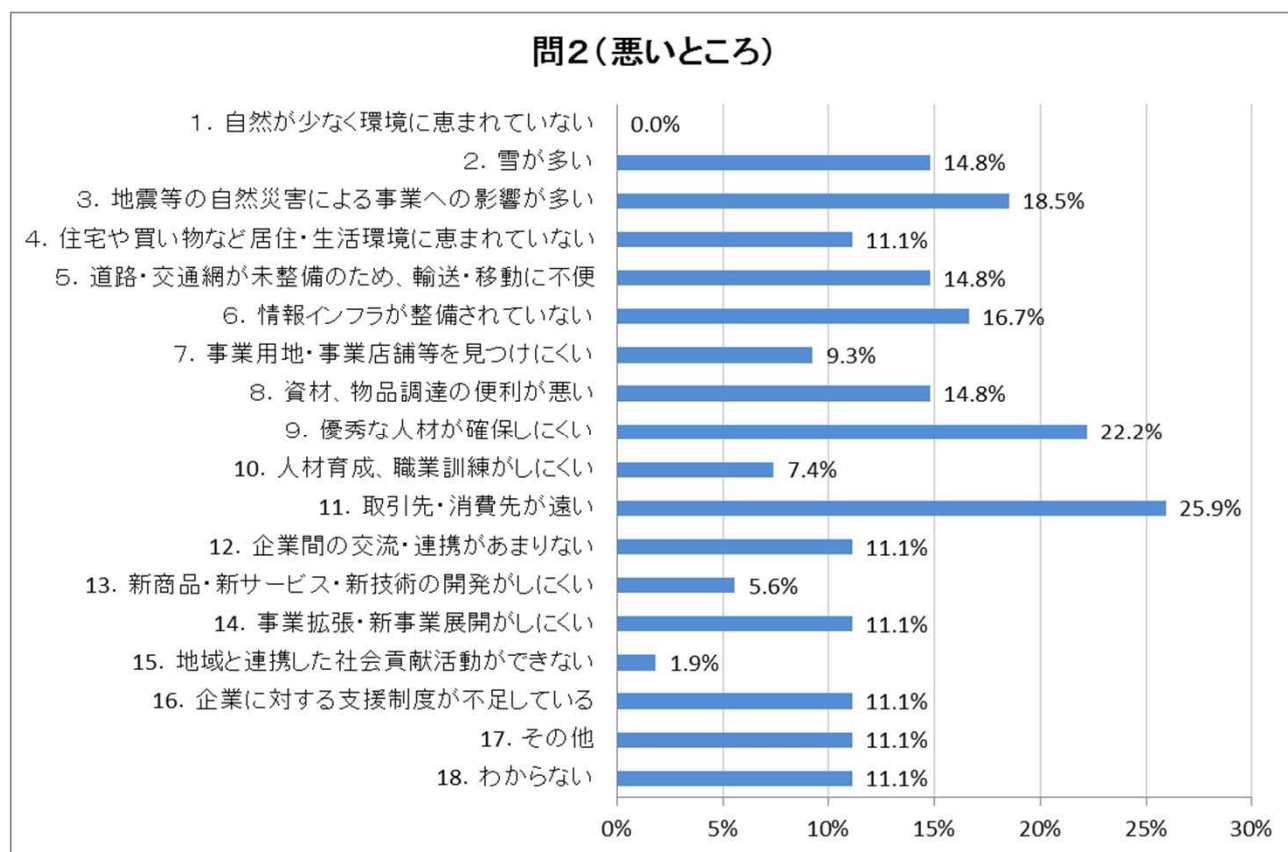


問2
企業の活動を行うにあたって、他の市町村と比べて、一関市のどのような点が良いところだと思いますか。



◆「道路・交通網が整備され、輸送・移動に便利」「自然が豊かで環境に恵まれている」の割合が高い。「新商品・新サービス・新技術の開発がしやすい」「事業拡張・新事業展開がしやすい」の割合が低い。

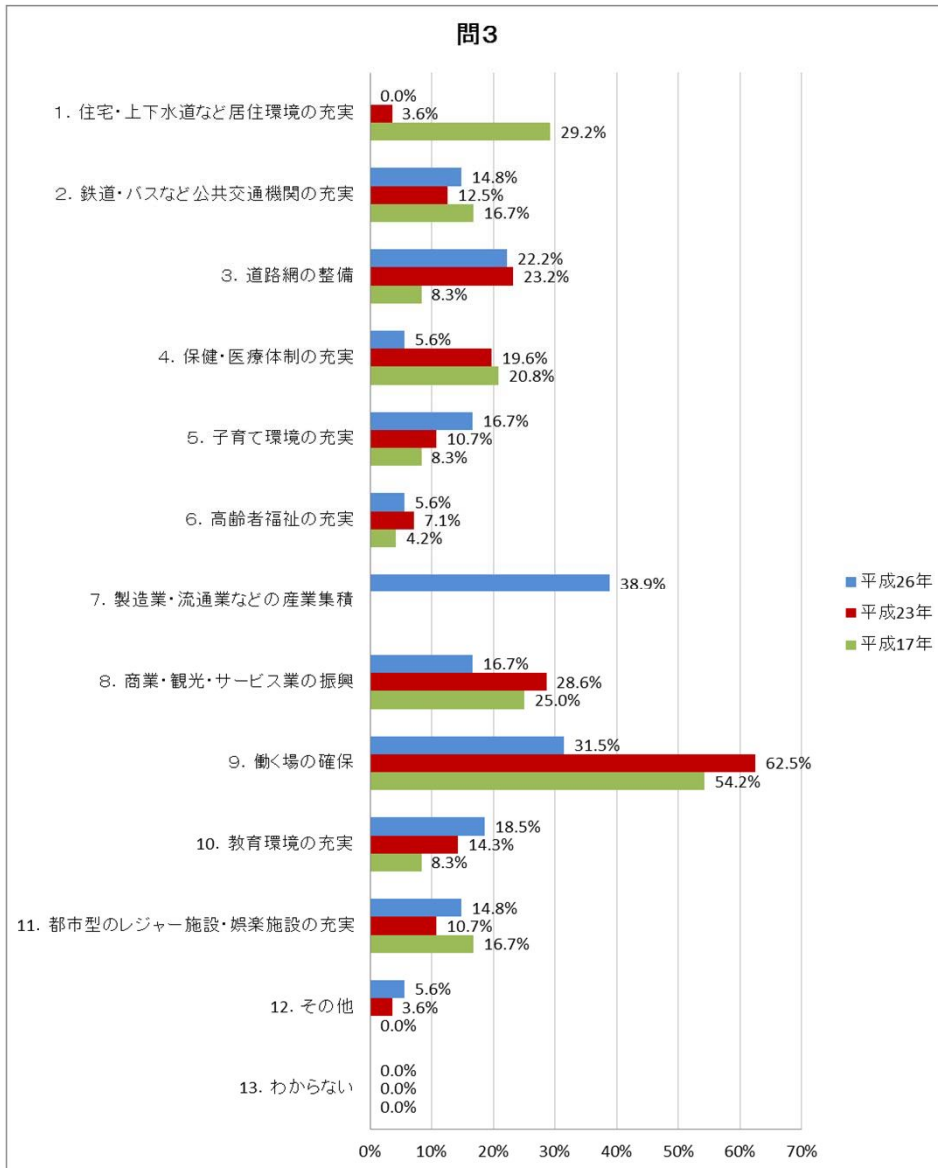
また、どのような点が悪いところだと思いますか。



◆「取引先・消費先が遠い」「優秀な人材が確保しにくい」「地震等の自然災害による事業への影響が多い」の割合が高い。「自然が少なく環境に恵まれていない」「地域と連携した社会貢献活動ができない」の割合が低い。

問3

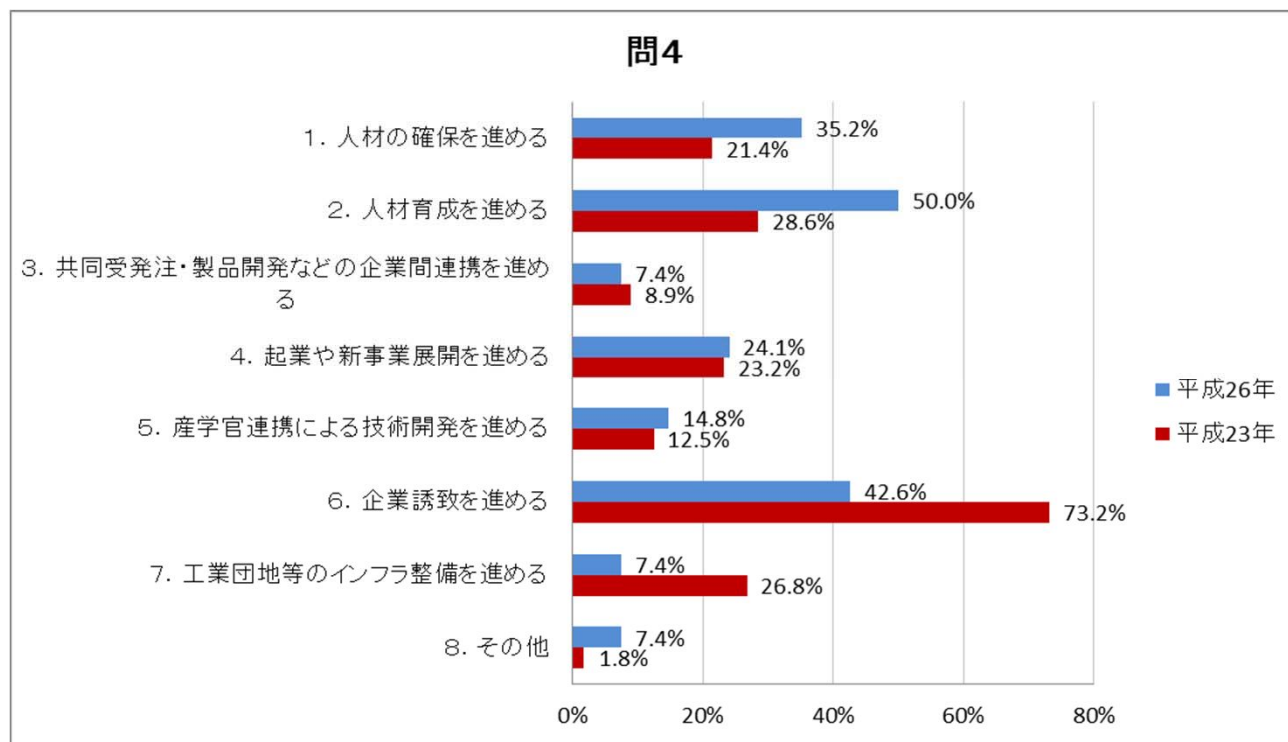
岩手県南から宮城県北までの地域を中東北として発展させていくため、一関市の役割としてどういう分野に力を入れていくべきとお考えですか。



◆「製造業・流通業などの産業集積(H26追加)」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「子育て環境の充実」の割合が増加し、「働く場の確保」「保健・医療体制の充実」の割合が減少した。

問4

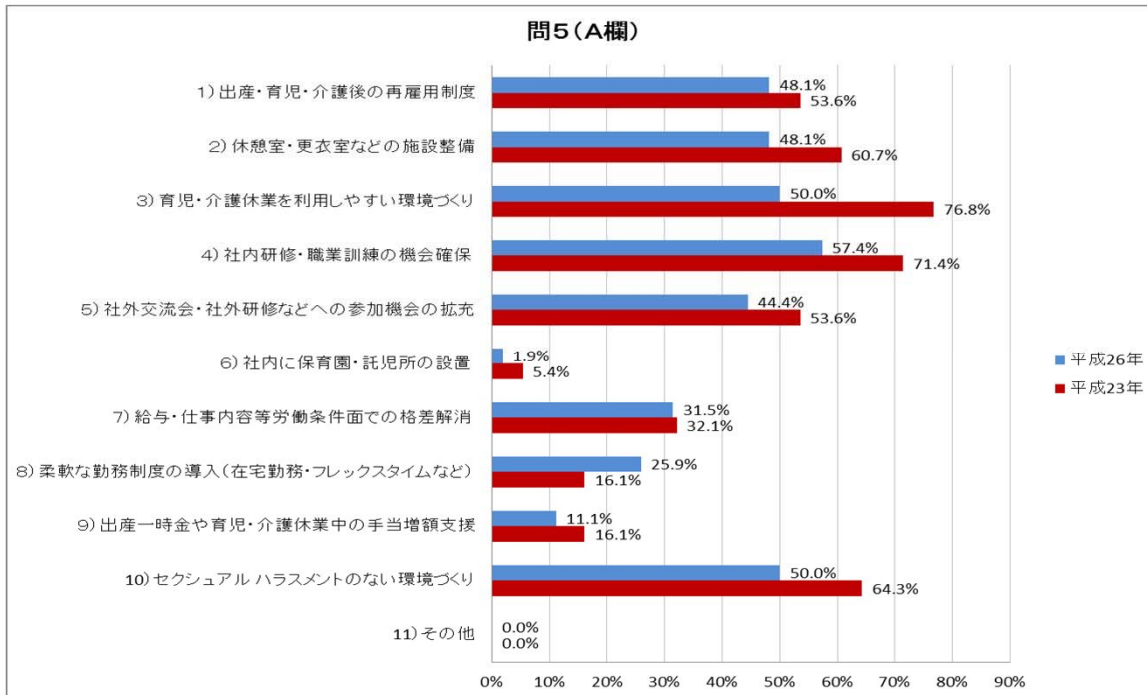
商工業の振興のため今後必要とお考えのものは何ですか。



◆「人材育成を進める」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「人材育成を進める」「人材の確保を進める」の割合が増加し、「企業誘致を進める」「工業団地等のインフラ整備を進める」の割合が減少した。

問5(A欄)

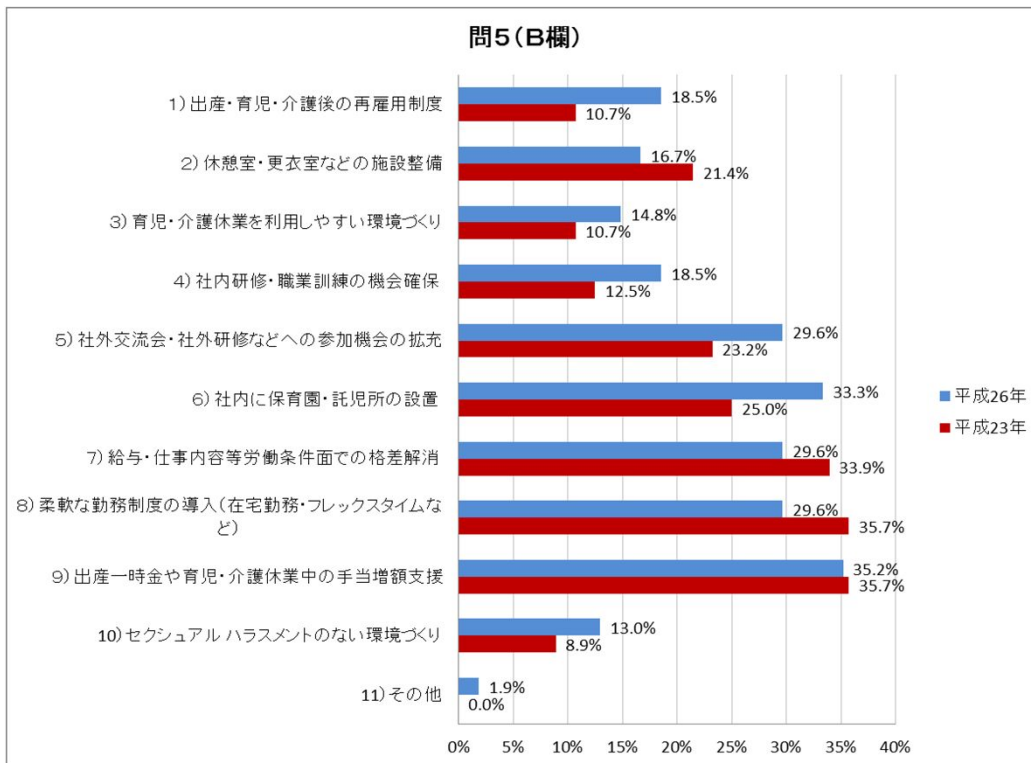
男女共同参画社会の実現のため、現在どのような取り組みを実施していますか。



◆「社内研修・職業訓練の機会確保」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「柔軟な勤務制度の導入」の割合が増加し、ほかすべての項目の割合が減少した。

問5(B欄)

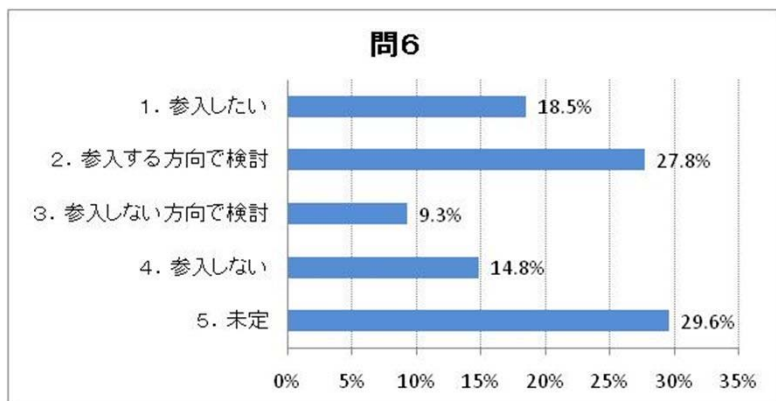
男女共同参画社会の実現のため、今後どのような取り組みを実施したいですか。



◆「出産一時金や育児・介護休業中の手当増額支援」の割合が高い。前回調査時と比較すると、「出産・育児・介護後の再雇用制度」「社外交流会・社外研修などへの参加機会の拡充」「社内に保育園・託児所の設置」の割合が増加し、「柔軟な勤務制度の導入」「給与・仕事内容等労働条件面での格差解消」の割合が減少した。

問6

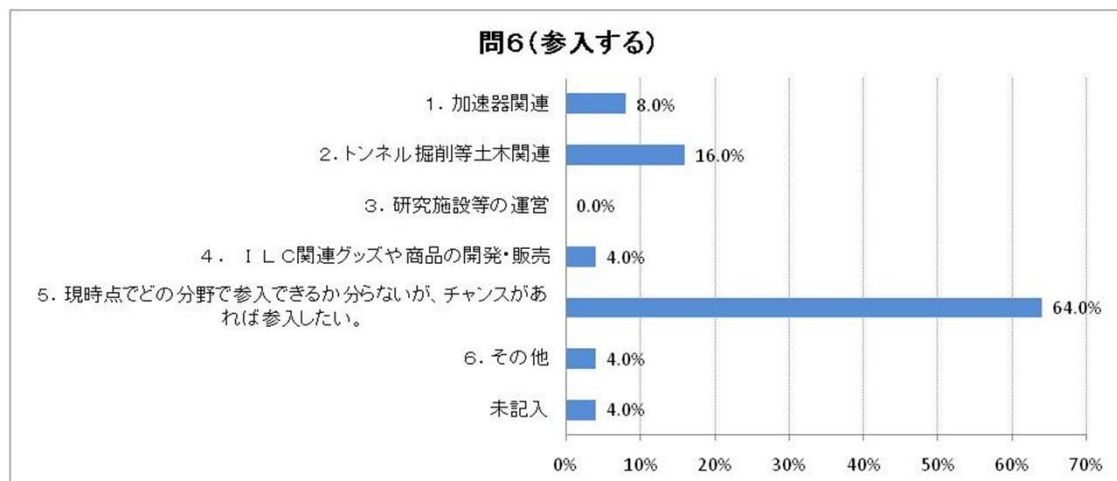
ILC関連産業への参入について、どのように考えていますか。



◆総じて、「参入」は46.3%、「参入しない」は24.1%、「未定」は29.6%だった。

問6(参入する)

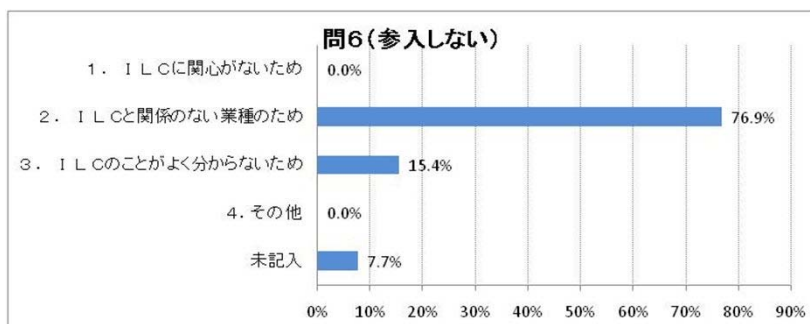
参入する場合、どのような分野で参入したいと考えていますか。



◆分野としては「トンネル掘削等土木関連」の割合が多い。「現時点でどの分野で参入できるかわからないが、チャンスがあれば参入したい」が64.0%だった。

問6(参入しない)

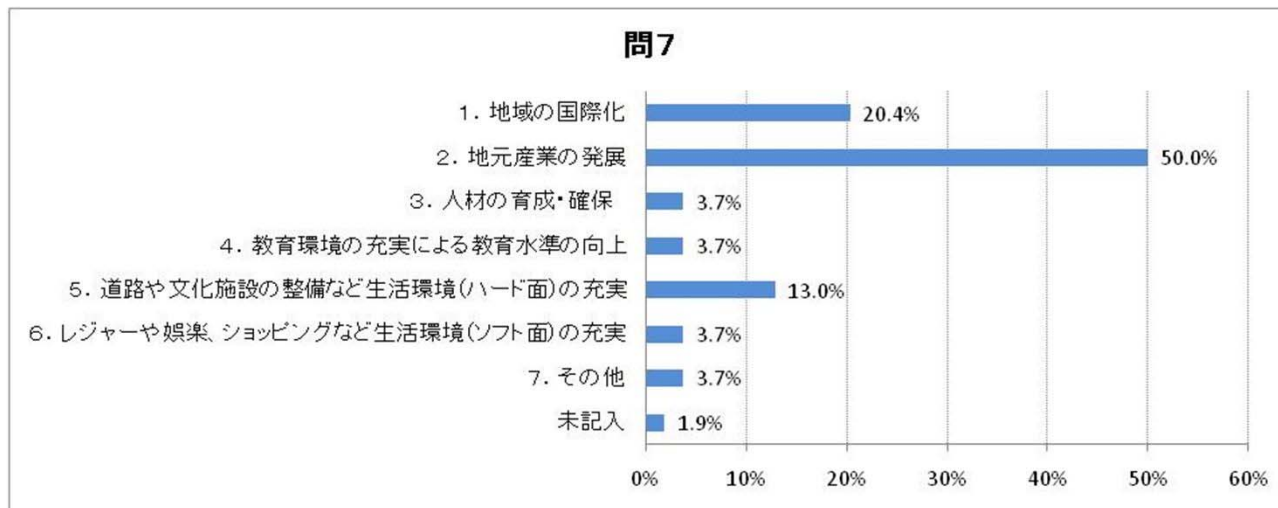
参入しない理由は何ですか。



◆「ILCと関係のない業種のため」が76.9%だった。

問7

あなたはILCの実現に伴って地域にどのようなことを期待しますか。



◆「地元産業の発展」の割合が多い。